

令和 4 年度
全国学力・学習状況調査

報告書

児童生徒一人一人の学力・学習状況に
応じた学習指導の改善・充実に向けて

小学校 国語

授業アイデア例
掲載

令和 4 年 8 月
文部科学省 国立教育政策研究所

目 次

1. 調査の概要	1
(1) 調査の目的	2
(2) 調査の対象とする児童生徒	2
(3) 調査事項及び手法	2
(4) 調査の方式	3
(5) 調査日時	3
(6) 集計児童生徒・学校数	4
(7) 調査結果の解釈等に関する留意事項	6
2. 教科に関する調査の結果（概要）	7
(1) 調査問題の内容、課題等、指導改善のポイント	8
(2) 集計結果（正答等の状況）	10
(3) 地域の規模等の状況	12
(4) 都道府県・指定都市の状況	12
(5) 教育委員会の状況	13
(6) 学校の状況	13
(7) 国・公・私立学校の状況	14
3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題	15
(1) 「3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題」の見方	16
(2) 小学校 国語	19
① 地域のためにできることについて話し合う（公園の美化）	20
設問一	22
設問二	23
設問三	26
設問四	27
授業アイデア例	
「地域のためにできることについて話し合おう」	
～互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合い、考えをまとめる～	29
② 物語を読んで、推薦する（那須田淳「銀色の幻想」）	33
設問一(1)	36
設問一(2)	37
設問二	38
設問三	40

授業アイデア例

「不思議な出来事が描かれている物語を読み、友達とすいせんし合おう」
～登場人物の相互関係や心情に着目し、人物像や物語の全体像を想像する～ … 41

- 3 経験を基に考えたことを書く（六年生としてがんばりたいこと） …… 48
- 設問一 …… 51
- 設問二 …… 54

授業アイデア例

「六年生としてがんばりたいことを書こう」
～文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける～ … 58

- 設問三 ア、イ、ウ …… 62
- 設問四 …… 64

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象とする児童生徒

【小学校調査】

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年

【中学校調査】

中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、
中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(3) 調査事項及び手法

① 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕

出題内容はそれぞれ次の(ア)と(イ)を一体的に問うもの。

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

(イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査問題は学習指導要領（平成29年告示）に示された目標及び内容等に基づいて作成。

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

本年度の主な調査項目は以下のとおり。

- ・挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等
- ・地域や社会に関わる活動の状況等
- ・ICTを活用した学習状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・学習に対する興味・関心や授業の理解度等

② 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

本年度の主な調査項目は以下のとおり。

- ・生徒指導等
- ・学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・ICTを活用した学習状況
- ・各教科の指導方法
- ・個に応じた指導
- ・新型コロナウイルス感染症の影響

※調査項目は毎年度文部科学省において決定。

※全国学力・学習状況調査の開始当初（平成19年度）と比べて質問紙調査の質問項目数が増加し、平成30年度より、毎年調査する項目と数年おきに調査する項目を分別し、質問項目数を選定。

(4) 調査の方式
悉皆調査

(5) 調査日時
令和4年4月19日(火)

【小学校調査】

1 時限目	2 時限目	3 時限目	
国語 (45 分)	算数 (45 分)	理科 (45 分)	児童質問紙 (20～40 分程度)

【中学校調査】

1 時限目	2 時限目	3 時限目	
国語 (50 分)	数学 (50 分)	理科 (50 分)	生徒質問紙 (20～45 分程度)

※児童生徒質問紙調査は、一部の学校において、PC・タブレット等の端末を活用したオンラインによる回答方式で実施。なお、オンラインによる回答方式で実施する場合、ネットワーク等の状況を考慮し、4月19日～4月28日の期間中における回答を4月19日に実施した調査の結果として集計している。

※調査の実施日に、特定の学校において調査を実施できないやむを得ない事情がある場合は、教育委員会及び学校等の判断により、当該学校における調査実施日を後日に変更することができることとしている。調査実施日を後日に変更する場合、全体の集計からは除外するが、4月20日～5月20日に実施された調査については、採点及び調査結果の提供を行っている。

(6) 集計児童生徒・学校数

① 集計基準

児童生徒に対する調査について、令和4年4月19日に実施された教科に関する調査及び質問紙調査の結果を集計。学校に対する質問紙調査については、在籍する児童生徒が調査を実施した学校の結果を集計。

② 集計児童生徒数

(小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年)

	調査対象児童数 ^{※1}	4月19日に調査を実施した児童数 ^{※2}	【参考】 4月19日～5月20日に調査を実施した児童数
公立	1,038,101人	965,761人	993,977人
国立	6,498人	6,097人	6,332人
私立	13,061人	6,253人	6,542人
合計	1,057,660人	978,111人	1,006,851人

(中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、
中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年)

	調査対象生徒数 ^{※1}	4月19日に調査を実施した生徒数 ^{※2}	【参考】 4月19日～5月20日に調査を実施した生徒数
公立	994,935人	892,585人	905,178人
国立	10,128人	9,640人	9,664人
私立	82,226人	26,284人	26,827人
合計	1,087,289人	928,509人	941,669人

※1 調査対象児童生徒数について、公立・国立は、調査実施前に学校から申告された児童生徒数、私立は、令和3年度学校基本調査による。調査当日までの転入出等により増減の可能性がある。

※2 調査を実施した児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

③ 集計学校数

(小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部)

	調査対象者の 在籍する学校 数	4月19日に調査を 実施した学校数 (実施率%)	【参考】 4月20日～5月20日 に調査を実施し た学校数	【参考】 4月19日～5月20日に 調査を実施した学校 数 (実施率%)
公立	18,805校	18,671校 (99.3%)	101校	18,772校 (99.8%)
国立	75校	73校 (97.3%)	2校	75校 (100.0%)
私立	242校	123校 (50.8%)	4校	127校 (52.5%)
合計	19,122校	18,867校 (98.7%)	107校	18,974校 (99.2%)

(中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部)

	調査対象者の 在籍する学校 数	4月19日に調査を 実施した学校数 (実施率%)	【参考】 4月20日～5月20日 に調査を実施し た学校数	【参考】 4月19日～5月20日に 調査を実施した学校 数 (実施率%)
公立	9,437校	9,348校 (99.1%)	60校	9,408校 (99.7%)
国立	80校	80校 (100.0%)	0校	80校 (100.0%)
私立	765校	334校 (43.7%)	5校	339校 (44.3%)
合計	10,282校	9,762校 (94.9%)	65校	9,827校 (95.6%)

(7) 調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が特定の教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である。

本調査の結果においては、国語、算数・数学、理科ごとの平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、平均正答数、平均正答率のみならず、中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析、評価することが必要である。また、個々の問題や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

<用語説明>

語句	説明
平均正答数	児童生徒の正答数の平均。
平均正答率	平均正答数を百分率で表示。 ○国語、算数・数学、理科ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。 ○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、問題ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率。
中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。 平均値とともに集団における代表値として捉えられる。
最頻値	集団のデータにおいて、最も多く現れる値。
標準偏差	集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値が全て同じ）ことを意味する。
解答類型	各問題についての正答、予想される解答などの解答状況を分類し整理したもの。

2. 教科に関する調査の結果（概要）

(1) 調査問題の内容、課題等、指導改善のポイント

○調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

- (例) ■ 話し合いにおける発言の理由として適切なものを選択する。
- 「ごみ拾い」と「花植え」から公園の美化活動にふさわしいものを選び、問題点についての解決方法を考えて、どのように話すかを書く。
 - 物語から伝わってくることを考え、推薦する文章の内容を書く。
 - 文章に対する感想の伝え合いを基にして、文章のよさを書く。

○課題等

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

- ◇ 話し言葉と書き言葉との違いを理解することはできている。〔1一〕
- ◆ 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることに課題がある。〔1二〕
- ◆ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。〔3三〕

我が国の言語文化に関する事項

- ◇ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことはできている。〔3四〕

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

- ◇ 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることはできている。〔1三〕
- ◆ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに引き続き課題がある。〔1四〕

書くこと

- ◆ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに課題がある。〔3一〕
- ◆ 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題がある。〔3二〕

読むこと

- ◇ 登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることはできている。〔2一(2)〕
- ◆ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることに課題がある。〔2一(1)〕
- ◆ 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることに課題がある。〔2二、三〕

◇…比較的できている点 ◆…課題のある点 [] 内の記号は、問題番号

○指導改善のポイント

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

○ 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える指導の充実

- ・ 言葉には、話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き、継続させる働きがある。話し合いにおいては、相手とのつながりをつくる働きのある言葉を適切に用いながら、話し合いを進めていくことが大切である。言葉の働きに気付くことができるようにするためには、振り返りの場面などで、自分たちの話し合いの様子を確かめる活動を設定することが効果的である。

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

○ 互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる指導の充実

- ・ 「考えをまとめる」とは、話し合いを通して様々な視点から検討し、互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点等をまとめることである。考えをまとめる際には、異なる意見を自分の考えに生かせるように「～という意見もあったが」、「～という考えもあるけれど」などの表現を用いられるようにすることが大切である。話し合いの目的や方向性を検討する場面を設定したり、話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理する方法を指導したりすることが効果的である。

書くこと

○ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える指導の充実

- ・ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えるとは、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討」、「考えの形成、記述」の指導事項を観点として、文や文章を推敲することである。指導事項の系統性を踏まえて、推敲する観点を明確にすることが大切である。相手や目的を明確にして児童自らが推敲する必要性を実感して書くことができる言語活動を設定したり、〔知識及び技能〕の(1)ウの表記の仕方や使い方に関する指導事項と関連を図って指導したりすることが効果的である。

○ 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける指導の充実

- ・ 文章に対する感想や意見を伝え合うとは、互いの書いた文章を読み合い、目的や意図に応じた文章の構成や展開になっているかなどについて、感想や意見を述べ合うことである。このことを通して、自分の文章のよいところを見付けることができるように指導することが大切である。目的や意図を相手に伝えたり、感想や意見を具体的に伝えたりする指導が効果的である。

読むこと

○ 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする指導の充実

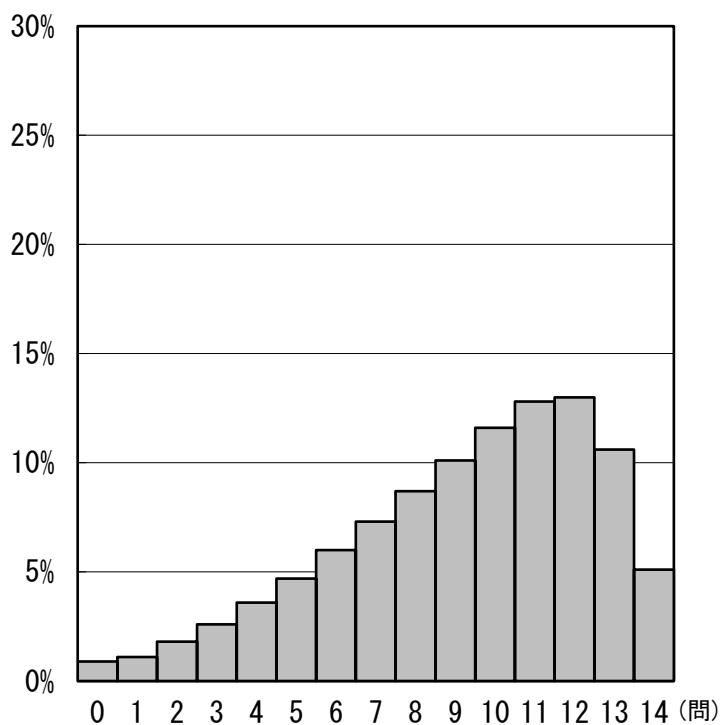
- ・ 物語の全体像は、登場人物や場面設定、個々の叙述などを基に、その世界や人物像などを豊かに想像することで捉えられる。また、表現の効果を考えるとは、想像した人物像や全体像と関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにしていくことである。「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読むことが大切である。物語全体を捉えられるようにしたり、着目した複数の叙述を基に考えたことを交流する場面を設定したりすることが効果的である。

(2) 集計結果 (正答等の状況)

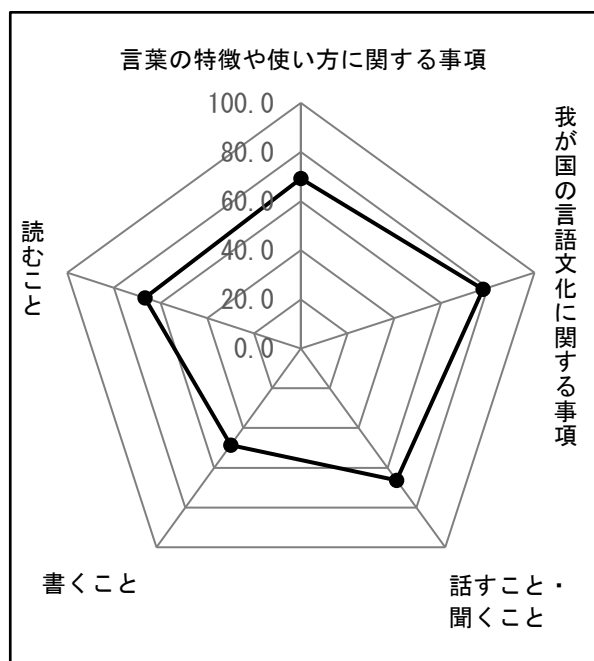
【国語】

児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
977,657人	9.2問/14問	65.8%	10.0問	3.3問	12問

正答数分布グラフ (横軸:正答数、縦軸:児童の割合)



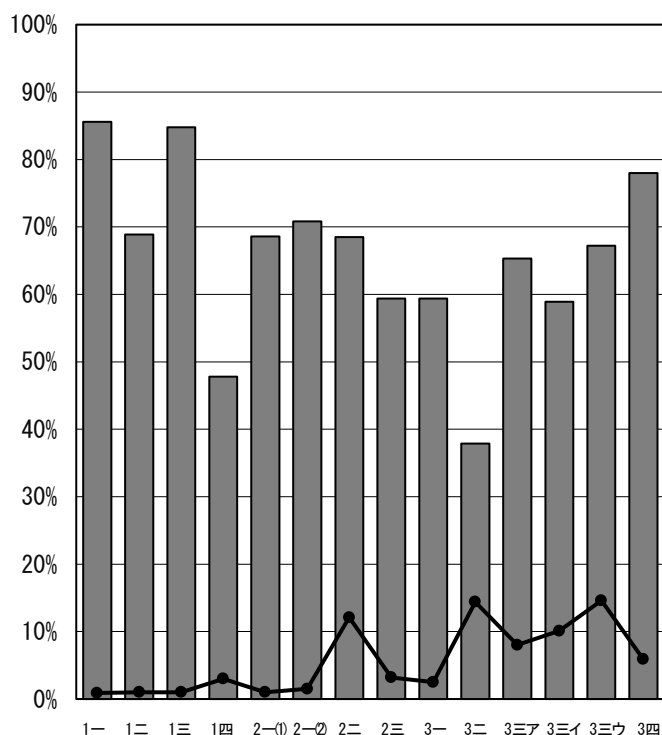
学習指導要領の内容の平均正答率



分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)	
学習指導要領の内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	5	69.2
		情報の扱いに関する事項	0	
		我が国の言語文化に関する事項	1	78.0
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	2	66.3
		書くこと	2	48.6
		読むこと	4	66.8
評価の観点	知識・技能	6	70.7	
	思考・判断・表現	8	62.1	
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	8	71.9	
	短答式	3	63.8	
	記述式	3	51.4	

問題別正答率「棒」・無解答率「折れ線」
(横軸:問題番号、縦軸:児童の割合)



問題別集計結果

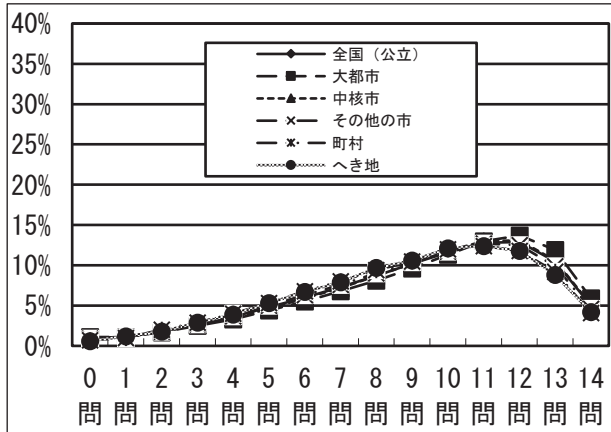
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容					評価の観点			問題形式			正答率 (%)	無解答率 (%)
			知識及び技能		思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式		
			言葉の特徴や使い方に關する事項	情報の扱い方に關する事項	我が国の言語文化に關する事項	話すこと・聞くこと	書くこと								
1一	【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いを理解する	5・6 イ						○		○			85.6	0.9
1二	【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える	5・6 ア						○		○			68.9	1.0
1三	【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこととの中心を捉える				3・4 エ		○		○				84.8	1.0
1四	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 <input type="checkbox"/> でどのように話すかを書く	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる				5・6 オ		○			○			47.8	3.0
2一 (1)	「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える					3・4 イ	○		○				68.6	1.0
2一 (2)	「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する	登場人物の相互関係について、描写を基に捉える					5・6 イ	○		○				70.8	1.5
2二	物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> に入る内容を書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像する					5・6 エ	○			○			68.5	12.1
2三	【山村さんの文章】の <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> に入る内容として適切なものを選択する	表現の効果を考える					5・6 エ	○		○				59.4	3.2
3一	【文章2】の <input type="checkbox"/> の部分を、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する	文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える					5・6 オ	○		○				59.4	2.5
3二	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよきを書く	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける					5・6 カ	○			○			37.9	14.4
3三ア	【文章2】の中の <input type="checkbox"/> 部アを、漢字を使って書き直す(ろくが)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	5・6 エ					○			○			65.3	8.0
3三イ	【文章2】の中の <input type="checkbox"/> 部イを、漢字を使って書き直す(はんせい)		5・6 エ					○			○			58.9	10.1
3三ウ	【文章2】の中の <input type="checkbox"/> 部ウを、漢字を使って書き直す(したしむ)		5・6 エ					○			○			67.2	14.6
3四	(一) から (二) に書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する	漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く					3・4 エ(イ)	○		○				78.0	5.9

(3) 地域の規模等の状況

○ 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差を見ると、地域の規模等（公立：大都市、中核市、その他の市、町村、へき地）による大きな差は見られない。

[国語]

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
全国（公立）	965,308人	9.2 / 14問	65.6%	10.0問	3.3問
大都市	267,586人	9.4 / 14問	66.9%	10.0問	3.3問
中核市	223,044人	9.2 / 14問	65.9%	10.0問	3.2問
その他の市	394,343人	9.1 / 14問	64.9%	10.0問	3.2問
町村	80,043人	9.0 / 14問	64.1%	9.0問	3.2問
へき地	16,025人	9.0 / 14問	64.0%	9.0問	3.2問

※大都市（政令指定都市及び東京23区）、中核市、その他の市、町村の値は、当該地方公共団体の教育委員会が設置管理する公立学校に在籍する児童の調査結果（正答数）を集計したものである（都道府県立学校は含まない）。

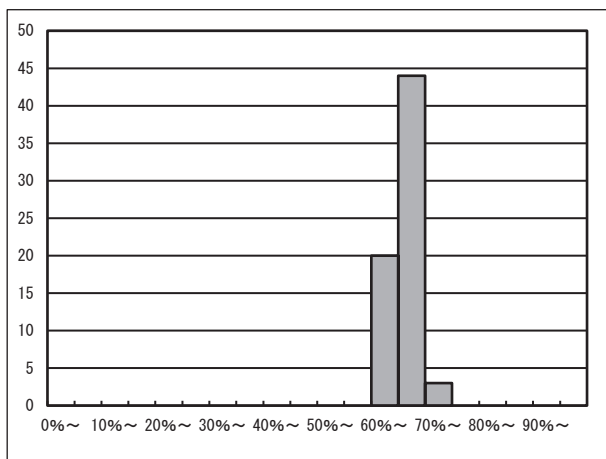
※へき地の値は、へき地教育振興法及び各都道府県の条例（規則）によって指定された学校に在籍する児童の調査結果を集計したものである。大都市、中核市、その他の市、町村の値に重複する。

(4) 都道府県・指定都市の状況

○ 各都道府県・指定都市（公立）の状況については、平均正答率を見ると、全ての都道府県・指定都市が平均正答率の±10%の範囲内であり、大きな差は見られない。

[国語]

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：都道府県・指定都市数）



全国（公立）の平均正答率	全都道府県市（公立）中、最高平均正答率【全国との差】	全都道府県市（公立）中、最低平均正答率【全国との差】
66%	71% 【+5%】	62% 【-4%】

※都道府県は指定都市を除く。全国（公立）の平均正答率は整数値で表示している。

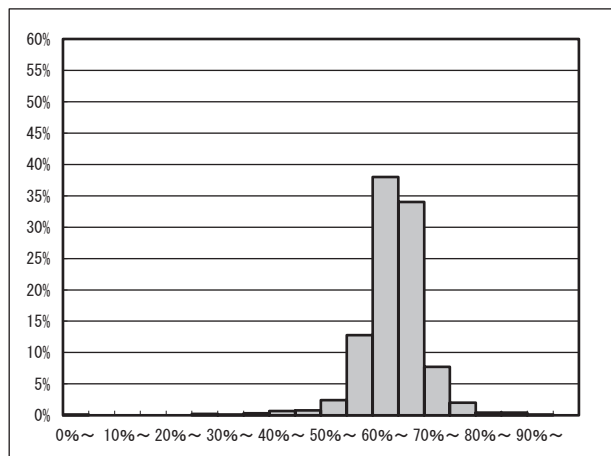
(5) 教育委員会の状況

○ 各教育委員会の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、令和3年度と比べ、ばらつきに大きな変化は見られない。

[国語]

教育委員会数	教育委員会の平均正答数	教育委員会の平均正答率	教育委員会の中央値	教育委員会の標準偏差
1,783	9.0 / 14問	64.1%	64.5%	6.3%

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：教育委員会の割合）



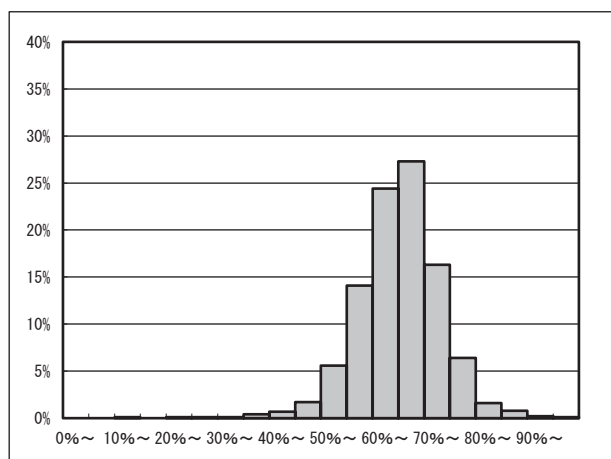
(6) 学校の状況

○ 各学校の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、令和3年度と比べ、ばらつきに大きな変化は見られない。

[国語]

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率	学校の中央値	学校の標準偏差
18,864校	9.1 / 14問	65.1%	65.5%	8.2%

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：学校の割合）

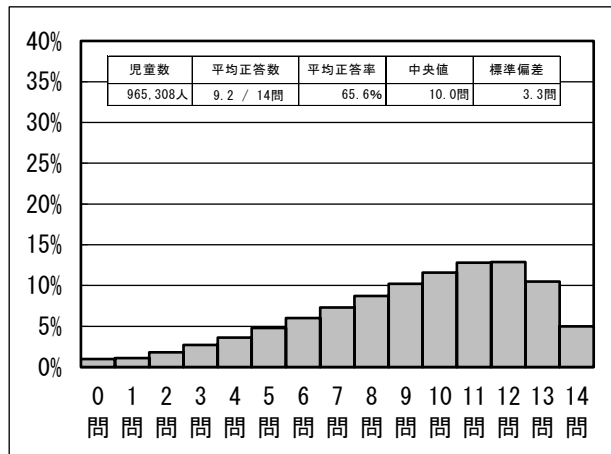


(7) 国・公・私立学校の状況

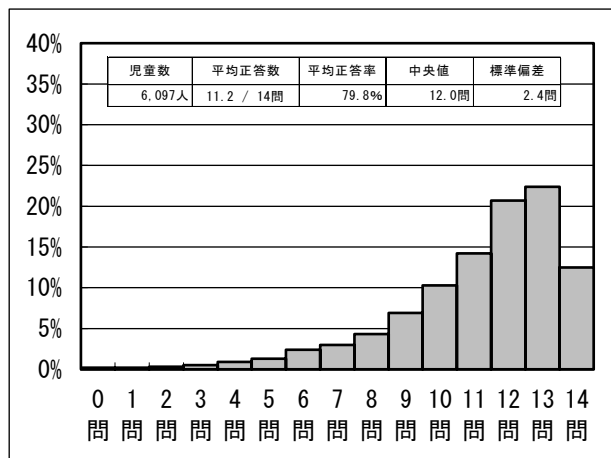
○ 国立・私立学校は一般的に入学者選抜を行っていることに留意する必要があるが、平均正答数について見ると、国立・私立学校は、公立学校を上回っている。

[国語]

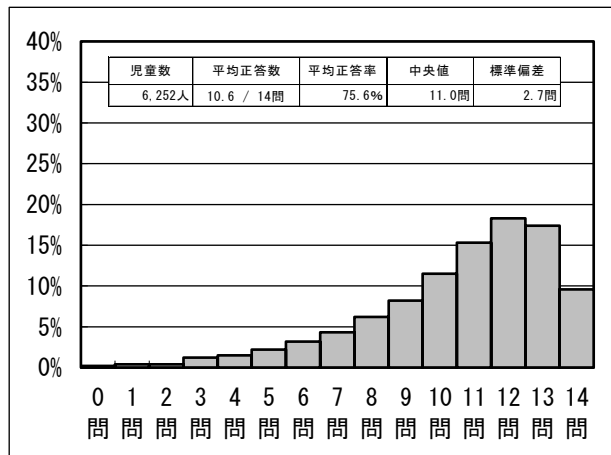
＜公立＞ 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



＜国立＞ 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



＜私立＞ 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題

(1) 「3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題」の見方

調査問題について、出題の趣旨、学習指導要領における内容、解答類型と反応率、分析結果と課題、学習指導に当たってなどを記述しています。

問題画像

調査問題を縮小して掲載しています。

出題の趣旨

問題ごとに、出題の意図、把握しようとする力、場面設定などを記述しています。

趣旨

設問ごとの出題の意図、把握しようとする力などを記述しています。
■学習指導要領における内容
 調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実を図る際に参考となるように、関係する学習指導要領における内容を示しています。

1. 解答類型と反応率

解答類型ごとの反応率、正答の条件を示しています。(詳細は下欄参照)

※図はイメージです。

教科名○

問 題 画 像

出題の趣旨

.....

設問○
趣旨

.....

■学習指導要領における内容
【第○学年】

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型	反 応 率 (%)	正 答
1	◎
2	
3	
4	
99	上記以外の解答	..	
0	無解答	..	

解答類型と反応率

解答類型は、児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握することができるように、設定する条件等に即して解答を分類、整理したものです。正誤だけではなく、児童生徒一人一人の解答の状況（どこでつまづいているのか）等に着目した学習指導の改善・充実を図る際に活用することができます。

<正答>

「◎」… 解答として求める条件を全て満たしている正答

「○」… 問題の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

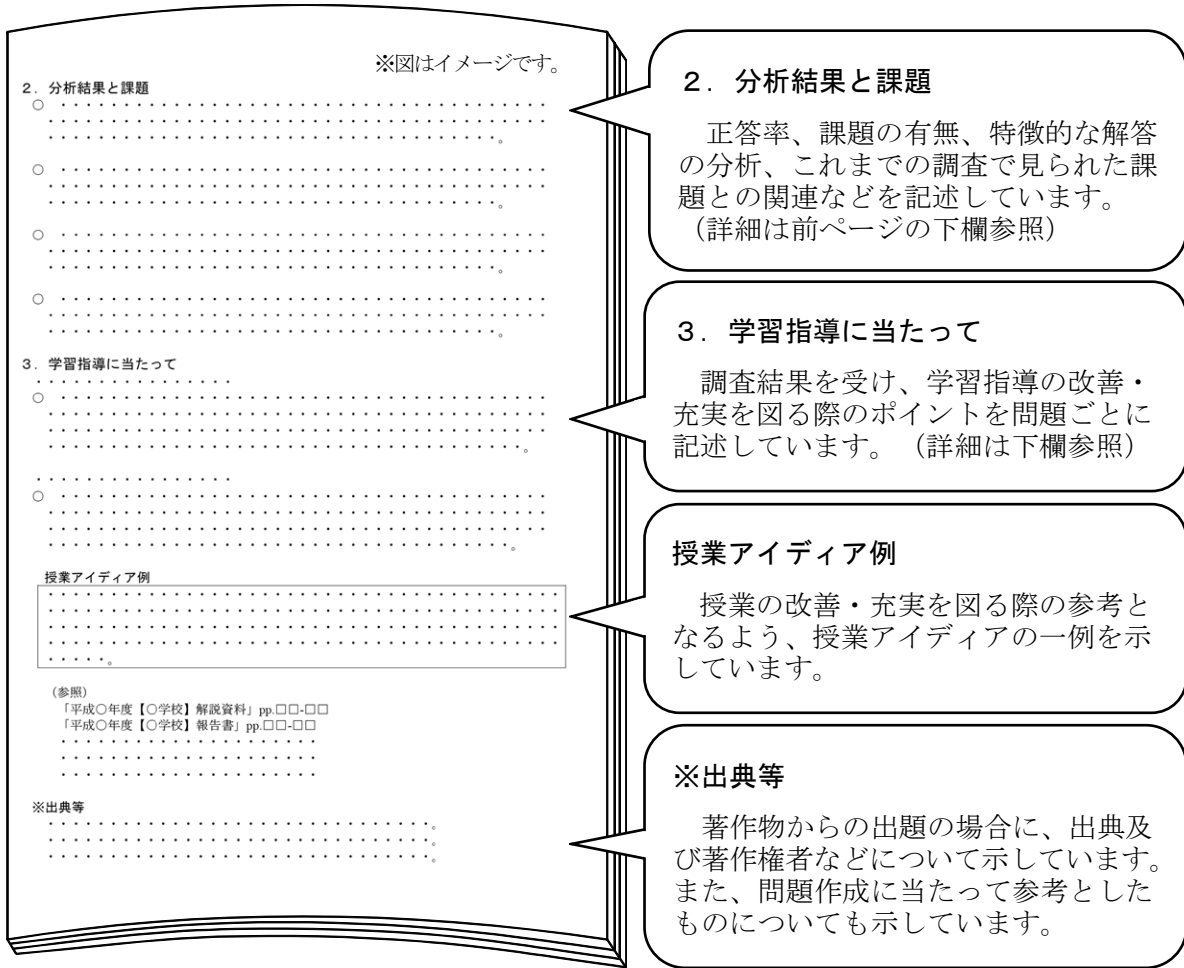
※反応率は小数第二位を四捨五入したものであるため、「◎」と「○」の反応率の合計と正答率が一致しない場合や合計が100%にならない場合があります。クロス集計についても同様です。

分析結果と課題

問題ごとに、以下の内容について記述しています。

- ・ 正答率、課題の有無
- ・ 特徴的な解答について、反応率、解答例、課題の詳細
- ・ これまでの調査で見られた課題との関連

など



学習指導に当たって（授業アイデア例含む）

調査問題に関係する内容について、各学年での日々の学習指導の改善・充実を図る際に「解説資料」（本年4月公表）と併せて御活用ください。

また、今年度から、授業の改善・充実により資するよう、これまで別途作成していた「授業アイデア例」を本書に掲載し、調査結果の課題分析と課題の解決を図る事例を一体的に示すことといたしました。

なお、関連する過去の調査の報告書や授業アイデア例など、これまで作成した資料の該当ページを記載していますので、これらの資料も併せて御活用ください。

本書では、以下の資料については略称を用いています。

資 料	略 称
「平成○年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 ○学校 ○○」	「平成○年度【○学校】解説資料」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査 報告書 ○学校 ○○」	「平成○年度【○学校】報告書」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査【○学校】の結果を踏まえた授業アイデア例」	「平成○年度【○学校】授業アイデア例」
「令和2年度 全国学力・学習状況調査 調査問題活用の参考資料 ○学校 ○○」	「令和2年度【○学校】活用の参考資料」
「令和○年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 ○学校 ○○」	「令和○年度【○学校】解説資料」
「令和○年度 全国学力・学習状況調査 報告書 ○学校 ○○」	「令和○年度【○学校】報告書」
「令和○年度 全国学力・学習状況調査【○学校】の結果を踏まえた授業アイデア例」	「令和○年度【○学校】授業アイデア例」

3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題

(2) 小学校 国語

国語 1 地域のためにできることについて話し合う(公園の美化)

1 岡さんの学級では、地域のためにできることについて話し合うことになりました。岡さんのグループでは、学校の近くにある公園をきれいにするについて話し合っています。次は、そのときの【話し合いの様子の一部】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

岡さん 学校の近くの公園は、広くて遊具があり、一年生のころから遊んでいる場所です。私は、今まで使ってきた公園を自分たちできれいにすることで、もっとたくさんの人に気持ちよく使ってもらえるようにしたいです。私自身、どうすればよいか考えているところですが、みなさんはどんなアイデアがありますか。

谷原さん 私は、公園に行く時、おかしなふくろやペットボトルがいつも落ちてることが気に なります。そこで、ごみを拾うきかがあるといいと思います。「きれい」というのは、ロボットのことではなく、活動する時間のことです。

山下さん 公園のごみを拾うことは、すぐにできるのでいいと思います。でも、続けることは 難しい気がします。私は、この公園には花が少ないので、許可をもらって、もつと たくさんのお花を植えれば、はなやかな感じになると思います。

谷原さん イ確かに、山下さんの言うとおり、花を植えることは私たちにもできるし、はなやかに なり、よいと思います。ただ、こまめに公園へ行つて花の水やりなどの世話を続ける ことも難しそうですね。

山下さん その点については、もう少し考えていきたいと思っています。

前田さん 私は、公園の遊具のベンキをぬり直したいと思っています。

中村さん ウどうして、公園の遊具のベンキをぬり直すことが必要なのですか。

前田さん 公園のすべり台やジャングルジムは、できてから時間がたっていて、どれも暗い 感じがします。そこで、自分たちだけでできるかどうかは気になりますが、明るい 感じにするために赤色や黄色のベンキで、ぜひぬり直したいと思っています。

中村さん なるほど、いいアイデアですね。ベンキをぬり直して明るくすると、公園がきれいにな るということですね。

岡さん こうして、みなさんの話を聞いてみると、どれも公園をきれいにするためのアイデアですね。

中村さん 今までの話し合いで出たアイデアについて、よい点と問題点に分けて(メモ)をしてみました。

私は、公園が明るくなるので、ベンキをぬり直すことがよいと考えました。できるかどうかは分からないという問題点については、公園を管理している人や家の人に相談するとよいと思います。

岡さん みなさんのアイデアや(メモ)から、取り組みやすいという理由で、私は、

△(メモ)

アイデア	○よい点 △問題点
ごみ拾い	○ごみがなくなる
花植え	△続けることがむずかしい
ベンキぬり	○はなやかになる △世話を続けることがむずかしい ○明るくなる △できるかどうかは分からない

△(話し合いが続く)△

1 意味を説明することで、同じ音でも複数の漢字があることを知ってもらうため。

2 意味を説明することで、同じ音で異なる意味をもつ言葉と区別するため。

3 くり返し伝えることで、相手の考えを引き出すため。

4 くり返し伝えることで、言葉のリズムをよくするため。

二 【話し合いの様子の一部】で、谷原さんや中村さんが、部イや部エのように発言した理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 友達の意見に質問し、みんなの意見を一つにまとめるため。
- 2 友達の意見に質問し、認め合いながら話を進めるため。
- 3 友達の意見のよさを伝え、みんなの意見を一つにまとめるため。
- 4 友達の意見のよさを伝え、認め合いながら話を進めるため。

三 【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんの発言に対して、部ウのように質問し、知らなかったことはどのようなことですか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 ベンキをぬり直すことが、公園の遊具で遊べることにつながる理由
- 2 ベンキをぬり直すことが、自分たちではできないことにつながる理由
- 3 ベンキをぬり直すことが、公園をきれいにするにつながる理由
- 4 ベンキをぬり直すことが、ごみのない公園につながる理由

四 岡さんは、「話し合いの様子の一部」の□で、「ごみ拾い」か「花植え」かを
選んで話そうとしています。あなたが岡さんなら、どのように話しますか。その内容を次の条件に
合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選び、その問題点についての解決方法を考え
書くこと。
- 「話し合いの様子の一部」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、五十文字以上、八十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの
言葉は、字数にはふくまない。

※左の専用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、専用紙に書きましょう。

※◆の印から書きましょう。どちらかで行を変えないで、続けて書きましょう。

みなさんのアイデアや(メモ)から、取り組みやすいという理由で、私は、

出題の趣旨

互いの立場を尊重しながら意図を明確にして話し合い、自分の考えを広げたりまとめたりすることができるかどうかをみる。

話し合いでは、異なる立場からの考えを聞き、様々な視点から検討した上で、自分の考えを広げたりまとめたりすることが大切である。その際、互いの立場や考えを尊重しながらも、自分の考えを伝えたり必要なことを質問したりする力も求められる。また、話し合いを通して、言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることや、話し言葉では誤解されやすい同音異義語を避けるとよいことに気付くことができるように指導することも重要である。

本問では、学校の近くの公園をきれいにすることについて、互いの立場を明確にしなが話し合う場面を設定した。岡さんたちは、公園をきれいにすることについて様々な視点から検討し、複数のアイデアのよい点と問題点を明確にしなが話し合っている。ここでは、岡さんの立場を通して、自分の考えを広げたりまとめたりすることが求められる。

なお、設問二では、[知識及び技能]の(1)「ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。」を取り上げている。この指導事項は、平成29年告示の小学校学習指導要領で新設されたものであり、本調査で取り上げることも初めてである。

また、設問四は、平成26年度【小学校】国語B[1]三（正答率28.4%）において、「立場を明確にして、質問や意見を述べること」、平成30年度【小学校】国語B[1]三（正答率33.9%）において、「話し手の意図を捉えなが聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること」に課題が見られたことを踏まえて出題した。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

[第5学年及び第6学年] 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと
ウ それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。

設問一

趣旨

話し言葉と書き言葉との違いを理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

イ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
①	—	1 1 と解答しているもの	6.3	
		2 2 と解答しているもの	85.6	◎
		3 3 と解答しているもの	6.0	
		4 4 と解答しているもの	0.8	
		99 上記以外の解答	0.4	
		0 無解答	0.9	

2. 分析結果と課題

- 解答類型1は、「きかい」には、同じ音で異なる意味をもつ言葉があることは理解しているが、谷原さんが言葉の意味を説明することで、誤解を招かないようにしていることは捉えることができなかつたと考えられる。
- 解答類型3は、谷原さんが言葉の意味を説明することで、同じ音で異なる意味をもつ言葉と区別しようとしていることを捉えることができず、相手の考えを引き出すために繰り返し伝えようとしていると捉えてしまったと考えられる。

3. 学習指導に当たって

話し言葉と書き言葉との違いに気付く

- 話し言葉には、そのままでは遡って内容を確認できない特質や、聞き手の反応を見ながら修正したり、説明を付け加えたりできる特質がある。書き言葉には、読み手が文章を繰り返し確認できることや意味の違いを漢字で使い分けて表すことができる特質がある。自分の考えが正確に伝わるようにそれぞれの特質に配慮した使い分けを身に付けることが大切である。

本設問では、聞き手に正しく理解してもらうために同じ音で異なる意味をもつ言葉と区別して誤解を招かないように説明を付け加え、工夫していることに気付くことが求められる。

実際の授業場面では、スピーチなどのように、事前に原稿を用意して話す場合と、話合いのように原稿を準備することなく話す場合とがある。原稿が準備できる場合においては、聞き手の立場に立った上で、複雑な構文や誤解されやすい同音異義語などを避けるなど話す内容を考えられるように指導する必要がある。

また、実際に話す場面において、話し手が聞き手のうなずきや表情に注意し、自分の話したことが伝わっているかを確かめながら、修正したり説明を付け加えたりしてその場の状況に応じて話すことができるように指導することが大切である。

設問二

趣旨

言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
①	二	1	1 と解答しているもの	6.1	
		2	2 と解答しているもの	12.3	
		3	3 と解答しているもの	11.3	
		4	4 と解答しているもの	68.9	◎
		99	上記以外の解答	0.4	
		0	無解答	1.0	

2. 分析結果と課題

- 本設問の正答率は68.9%であった。解答類型1～3の反応率も踏まえると、言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることに課題があると考えられる。
- 解答類型2は、谷原さんや中村さんの発言が友達の意見のよさを伝えるものであることを捉えることができなかったと考えられる。
- 解答類型3は、谷原さんや中村さんの発言の内容や「地域のためにできることについて話し合う」という話合いの方向性を捉えることはできたが、言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることができなかったと考えられる。この中には、話合いは、意見を一つにまとめるためのものであるという意識が強くある児童もいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える

- 言葉には、話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き、継続させる働きがある。特に話合いにおいては、そうした相手とのつながりをつくる働きのある言葉を適切に用いながら、話合いを進めていくことが大切である。

本設問では、話し手の発言の内容を適切に捉えた上で、「確かに」、「なるほど」と発言して、友達の意見のよさを伝え、認め合いながら話合いを進めることで、話し手と聞き手の間に良好な関係を築きながら、自分の考えを広げたりまとめたりしていくことが求められている。

学習指導に当たっては、話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き、継続させる言葉の働きに気付くことができるように、振り返りの場面などで自分たちの話合いの様子を確かめる活動を設定することが考えられる。ここでは、本設問を活用した学習活動の例を示す。

「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあること」について振り返る（学習活動の例）



岡さん

今日の話し合いでは、公園をもっとたくさんの人に気持ちよく使ってもらうために何をしたらよいかについて、みんなのアイデアを聞いて、自分の考えがまとまったよ。ありがとう。



中村さん

私も、みんなの意見を聞いて、自分の考えを広げることができたよ。今日は、いろいろな意見が出て、気持ちよく話し合いが進んでいたね。

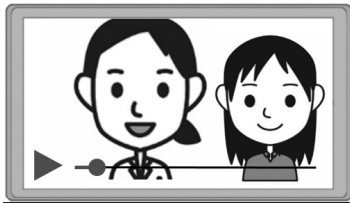


教師

何がよかったのか、自分たちの話し合いを動画で見直してみるとよいですよ。今日の話し合いが気持ちよく進んだのは、どんな言葉を使ったからなのか、言葉に着目してみてください。

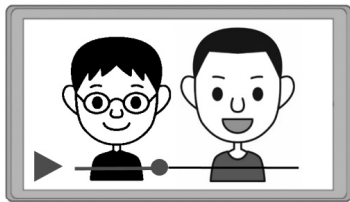


【話し合いの様子】



谷原さん

確かに、山下さんの言うとおり、花を植えることは私たちにもできるし、はなやかに、よいと思います。ただ、こまめに公園に行って花の水やりなどの世話を続けることも難しそうですね。



山下さん

その点については、もう少し考えていきたいと思っています。



岡さん

この場面で、谷原さんが「確かに…ただ…」の発言をした後、山下さんは、「もう少し考えていきたい」と自分の考えを深めようとしているよね。



前田さん

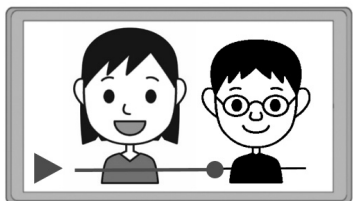
「確かに」と言ってもらえたことで、山下さんは自分の考えを認めてもらえたと感じたのかな。どう感じたかな？山下さん。



山下さん

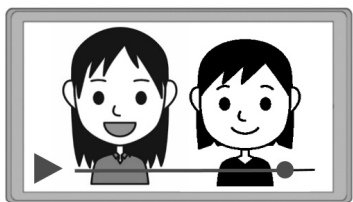
谷原さんに「確かに」と言ってもらえて、自分の考えが認められた感じがしたよ。この場面、最初から「難しそう」と言われていたら、自分の考えを否定されたように感じて、もう一度考えようと思わなかったらうな。

【話し合いの様子】



中村さん

なるほど、いいアイデアですね。ペンキをぬり直して明るくすると、公園がきれいになるということですね。



岡さん

こうして、みなさんの話を聞いてみると、どれも公園をきれいにするためのアイデアですね。



山下さん

この場面で、どうして中村さんは「なるほど」って言ったの？



中村さん

前田さんの意見は、自分には考えつかなかった意見だったし、納得できたからだよ。前田さんのおかげで、自分の考えを広げることができたよ。



前田さん

「なるほど」と言ってもらえたから、私も伝えてよかったと思ったよ。その後、岡さんが、どのアイデアもいいアイデアだと、みんなの意見を認めていたのもよかったね。



山下さん

友達の考えに共感したり、認めたりする言葉を使うと、話し合いがしやすくなるね。ふだんの会話や他の学習でも大事にしていきたいな。



教師

言葉に着目したよい振り返りができましたね。お互いの考えのよさを認め、それを言葉で相手に伝えていくことで、話し合いが気持ちよく進みやすくなるのですね。

※本学習活動の例においては、「話し合い」や「話し合い」の表記について、「話し合い」という表記に統一しています。

設問三

趣旨

必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第3学年及び第4学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
①	三	1	1 と解答しているもの	6.0	◎
		2	2 と解答しているもの	4.4	
		3	3 と解答しているもの	84.8	
		4	4 と解答しているもの	3.5	
		99	上記以外の解答	0.4	
		0	無解答	1.0	

2. 分析結果と課題

- 解答類型1は、「公園のすべり台やジャングルジムは、できてから時間がたっていて」という前田さんの発言の一部だけを踏まえて中村さんが知りたかったことを考えてしまい、中村さんが聞きたいことの中心を捉えることができなかつたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

必要なことを記録したり質問したりして話の中心を捉える

- 「話の中心を捉えること」には、話し手が伝えたいことの中心を捉えることと、自分が聞きたいことの中心を明確にして聞くこととの二つの側面がある。話の中心を捉えるためには、話題について興味や関心を持ち、聞く目的を明確にしなが集中して聞くとともに、必要な事柄を記録しながら話を聞いたり、聞いた事柄を基に分からない点や確かめたい点などを質問したりすることが大切である。

中村さんは【話し合いの様子の一部】において、記録したり、分からない点について質問したりして話し手の伝えたいことの中心を捉え、最終的にペンキをぬり直すことがよいという自分の考えを表現している。本設問では、中村さんと前田さんのやりとりを踏まえ、中村さんがどのような目的で質問しているのかを捉えることが求められる。

このように、実際の授業場面においても、質問するだけに終始せず、質問して分かったことを踏まえて形成した自分の考えを表現できるように指導することが効果的である。そのため、聞いたことについて、第1学年及び第2学年においては感想をもつこと、第3学年及び第4学年においては自分の考えをもつこと、第5学年及び第6学年においては、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることを系統的に指導していくことが大切である。

学習指導に当たっては、以下の資料も参考になる。

(参照)

「平成24年度【小学校】報告書」 pp. 125-126

https://www.nier.go.jp/12chousakekkahoukou/03shou-gaiyou/24_shou_houkokusyo-4_kokugoa_2.pdf



設問四

趣旨

互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと
 オ 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
①	四 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 以下の内容を取り上げて書いている。 a 「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで書いている。 b 選んだアイデアの問題点に対する解決方法を書いている。 ② 【話し合いの様子の一部】から言葉や文を取り上げて書いている。 ③ 50字以上、80字以内で書いている。 (正答例) ・ ごみ拾いがよいと思います。続けることがむずかしい点については、当番を決めてごみを拾ったり、地いきの方にも呼びかけて協力してもらったりするとよいと思います。(77字) ・ 花植えがよいと思います。花の世話を続けることは大変ですが、公園をはなやかな感じにしたいので、みんなで当番を決めてけい続いて世話をすればよいと思います。(75字)			
	1	条件①a、bの両方と、条件②、③を満たしているもの	47.8	◎
	2	条件①a、bの両方と、条件②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	0.2	
	3	条件①a、bの両方は満たしているが、条件②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	3.0	
	4	条件①a、②は満たしているが、条件①bは満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	36.0	
	5	条件①aは満たしているが、条件①b、②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	3.7	
	6	条件②は満たしているが、条件①aは満たしていないもの *条件①b、③を満たしているかどうかは不問とする。	5.3	
	99	上記以外の解答	1.0	
	0	無解答	3.0	

2. 分析結果と課題

○ 平成26年度【小学校】国語B①三(正答率28.4%)において、「立場を明確にして、質問や意見を述べること」、平成30年度【小学校】国語B①三(正答率33.9%)において、「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること」に課題

があると指摘している。これに関連して、本設問では、互いの立場を明確にしながら話し合う場面を取り上げた。本設問の正答率は47.8%であった。互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに引き続き課題があると考えられる。

○ 解答類型4の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 公園に花を植えたらいいと思います。理由は、公園をはなやかにすれば、みんなも花から元気ももらえるからです。(52字)
- ・ ごみ拾いがよいと思います。やり続けようという気持ちをもてば、すぐにできるからです。(41字)

このように解答した児童は、「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選び、【話し合いの様子の一部】から言葉や文を取り上げて書いているが、選んだアイデアの問題点に対する解決方法を書いていない。

この中には、問題点に対する解決方法にふれずに、アイデアを選んだ理由などを書いている解答が見られた。本設問においては、岡さんが「取り組みやすいという理由で」と、アイデアを選んだ理由については既に述べているため、理由は述べる必要がない。

このような状況が見られた児童は、話し合いの目的を意識することができなかつたり、問題点を捉えることができなかつたりしたと考えられる。また、問題点を捉えることができても、問題点を踏まえた自分の考えをまとめることができなかつた児童もいたと考えられる。「意見を言った後に理由を言う」などの学習の経験に基づいて解答してしまったことも考えられる。

3. 学習指導に当たって

互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる

○ 「考えをまとめる」とは、話し合いを通して様々な視点から検討し、互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点等をまとめることである。話し合った後で考えをまとめる際には、様々な視点から検討したことを踏まえて、自分の考えをまとめることが求められる。異なる意見を自分の考えに生かせるように、例えば「～という意見もあったが」、「～という考えもあるけれど」などの表現を用いられるようにすることが効果的である。

本設問では、「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選び、その問題点についての解決方法を具体的に考えていくことが求められる。話し合いの目的を意識しながら、自分のこととして考えていくことが重要である。

学習指導に当たっては、話し合いを始める際に話し合いの目的や方向性を検討すること、話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理すること、様々な視点から検討して自分の考えをまとめることなどが重要である。

本問全体を活用した「授業アイディア例」を次に示す。


授業アイデア例


<p>「地域のためにできることについて話し合おう」 ～互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、考えをまとめる～</p>	<p>〈実施対象学年〉 第5・6学年</p>
---	----------------------------

本授業アイデア例では、単元の流れに沿って、課題に応じた指導事例を以下のように取り上げて紹介します。


- ①話し合いの目的を意識できず、自分のこととして考えることができていない場合 → 【指導事例①】
- ②互いの意見から必要な情報を見付けることができていない場合 → 【指導事例②】
- ③自分の考えをまとめることができていない場合 → 【指導事例③】


<p>【指導事例①】</p>	<p>自分のこととして考えることができるように、話し合う際に、話し合いの目的や方向性を確認し、計画的に話し合えるようにする</p>
----------------	---


 学級全体では、「地域のためにできることについて話し合おう」ということになったけれど、私たちのグループの話題と、話し合いの目的を確認しよう。


 公園が汚れているのが気になるな。公園をきれいにして、もっとたくさんの人に使ってもらいたいな。私たちのグループの**話題**は、「公園をきれいにすること」にしよう。

 今回の話し合いの**目的**は、公園をきれいにするために自分たちができることを考えるということだね。

 話し合いの方向性と、具体的にどのように進めていくか、確認しよう。
方向性としては、いろいろな考えを出し合いながら話し合っていきたいね。

 まずは、それぞれの考えを出し合っていこうか。理由も聞きたいな。


 よい点や問題点を整理しながら進めることも大事だね。


 このグループでは、話し合いの目的や方向性をみんなで確認していて、とてもよいですね。確認したことを記録しておいて、話し合いのときに、意識している点もよいですね。

教師

グループで確認したこと

話題	公園をきれいにすること
目的	公園をきれいにするために、自分たちができることを考える
方向性	考えを広げるために話し合う →そのために、互いの考えを明確にする よい点や問題点を整理しながら進める



ポイント 

話し合いを始める際に、話し合いの目的や方向性を確認する場を設けることが大切です。必要に応じて、教師が本指導事例のような話し合いのモデルを示すことも考えられます。

教師が、話し合いの目的や方向性を確認している児童の姿を価値付けたり、他のグループに紹介したりすることも大切です。

また、グループで確認したことを記録に残すように促し、その後の話し合いにおいても、意識するように働き掛けていくと効果的です。

【指導事例②】

自分の意見と友達の意見を比べる場面では、必要な情報を見付けるために、よい点と問題点を整理できるようにする

【立場ごとに記録する (例1)】 (話し合いながら)

<p>ごみ拾い ・ごみがいつも落ちている</p> <p>○すぐにできる</p> <p>△続けることが難しい</p>	<p>花植え ・公園に花が少ない</p> <p>△許可をもらう</p> <p>○はなやかな感じになる</p> <p>△続けることが難しい</p>
<p>ペンキぬり ・遊具が暗い感じがする</p> <p>○明るい感じになる</p> <p>△自分たちでできるか分からない</p>	



それぞれの考えを付箋に書いてみて、よい点や問題点を後で比べてみよう。



付箋を改めて見ると、ごみ拾いと花植えは続けることが共通する問題だな。

【よい点と問題点に分ける (例2)】 (話し合いながら)

	ごみ拾い	花植え	ペンキぬり	
よい点	・すぐにできる	・はなやかな感じになる	・明るい感じになる	
問題点	・続けることが難しい	・許可が必要 ・続けることが難しい ・花の準備が必要	・自分たちでできるか分からない ・ペンキが必要	



それぞれのよい点と問題点を分けてみようかな。私はタブレットを使おう。



比べてみると、花植えは問題点が多く、いろいろなことを解決しないとイケないな。

※ タブレット端末等で、教師があらかじめ作成した表を児童に配付することも効果的です。

【観点を決めて比べる (例3)】 (意見が出そろったら)

	すぐにできる	続けやすい	許可がいるか
ごみ拾い	○	△	○
花植え	△	△	△
ペンキぬり	△	○	△



話し合いで出てきたそれぞれの考えについて様々な点から取り組みやすさを比べてみよう。



取り組みやすさを比べてみると、ごみ拾いがいちばん取り組みやすそうだな。



話し合うとき、目的に合った方法で情報を整理すると、必要な情報を見付けやすくなり、自分の考えをまとめるときに役立ちますね。

ポイント

話し合う際には、目的に応じて、自分に合った情報の整理の仕方を選択し、情報を整理すると、自分の考えをまとめる際の必要な情報が明確になります。

話し合う際に活用できるように、「知識及び技能」(2)「イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。」と関連させて指導していくことが効果的です。

【指導事例③】 よい点や問題点を踏まえて、考えをまとめられるようにする



話し合いを基に、自分の考えをまとめたいけれど、どう言っているか、分からないな。



自分の考えをまとめるのは、なかなか難しいですね。自分の考えをまとめるにはどのようにしたらよいでしょうか。調査問題の**1**の【話し合いの様子の一部】の続きを、先生が3パターン考えて文章にしてみました。
パターン1～3について、みんなで考えてみましょう。

みなさんのアイデアや〈メモ〉から、取り組みやすいという理由で、私は、

【話し合いの展開を踏まえていない例】

パターン1

みなさんのアイデアや〈メモ〉から、取り組みやすいという理由で、私は、**公園に花を植えたらよいと思います。例えば、チューリップや朝顔がきれいだからよいと思います。**



パターン1は、「みんなのアイデアやメモから」と言っているけれど、話し合いで出た問題点についてはふれていないね。話し合ったことを踏まえて、考えていくことが大事だね。



そうだね。問題点を入れるとすると、**パターン1**は、「世話を続けることは難しいという問題点はあるけれど、当番を決めればよいと思います」と、まとめるといいよね。

【考えと理由が区別されていない例】

パターン2

みなさんのアイデアや〈メモ〉から、取り組みやすいという理由で、私は、**公園に花を植えたらよいと思います。なぜかという、公園をはなやかにすれば、みんなも元気をもらえるからです。**



パターン2は、「取り組みやすいという理由で」と、既に意見の理由を述べているので、さらに、「なぜなら」と繰り返し理由を言ってしまうと、違和感があるね。



そうだね。意見の後には理由を言いたくなるけれど、先に理由を言っているから、理由をまとめて言った方が考えと区別されていいね。



それだったら、**パターン2**は、もう理由は伝えているから、「世話を続けることが難しいという問題点については、当番を決めればよいです」と、まとめるといいよね。

【問題点を踏まえて、自分の考えをまとめられている例】

パターン3

みなさんのアイデアや
〈メモ〉から、取り組みや
すいという理由で、私は、
**公園に花を植えたらよいと思
います。世話を続けることが
難しいという問題点もありま
すが、当番を決めて行えばよ
いと思います。**



パターン3は、話し合いでの検討を
踏まえて、自分の考えをまとめること
ができているね。



そうだね。パターン3は、話し合い
の中で出た、「花植えは、世話を続ける
ことが難しい」という問題点を踏まえて、
解決方法を自分で考えていて、とても
いいね。



花植えがよいという自分の考えに
対して、世話を続けることが難しいと
いう異なる意見も出たけれど、そのこと
を考えることで、自分の考えがより
広がっていくことが分かったね。



「～という考えもあるけれど」とい
う表現を使ったりして、友達の意見を
受け止めることって、とても大事な
だね。



みなさん、よく気が付きましたね。自分の考えをまとめるときには、話し
合いを通して様々な視点から検討したことを踏まえることが大事ですね。
今回の話し合いでは、問題点が出されたので、その問題点を取り上げて、
それに対する解決方法を示す必要がありました。また、異なる意見を自分の
考えに生かしていくことも大事ですね。自分の考えが広がります。ふだん
から意識してみましょう。

ポイント

自分の考えをまとめる場面においては、考えをまとめていくときにはどうしたら
よいのかについて、児童が気付くことができる手立てをとることが大切です。
例えば、教師が作成したモデル文などを教材として、内容や分量、話し方などに
着目できるようにすると効果的です。

【活用のポイント】

- 本授業アイデア例のように、児童の学習の状況（つまずき）に応じた指導を行うことが重要です。
- 本授業アイデア例のように、令和4年度全国学力・学習状況調査【小学校】国語1の【話し合いの様子の一部】を教材として活用して、学習を展開することが考えられます。

※本授業アイデア例においては、「話し合い」や「話し合い」の表記について、「話し合い」という表記に統一しています。

国語 2 物語を読んで、推薦する (那須田淳「銀色の幻想」)

2

森田さんの学級では、不思議な出来事が描かれている物語を読み、友達とせいせんし合うことになりました。森田さんは、「銀色の幻想」という題名の物語を選んで読み、気になるところにふせんを貼っています。次は、「物語のこれまでのあらすじ」と「物語の一部」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。



森田さん

【物語のこれまでのあらすじ】

学校の帰りに、自分と同じ名前の子のH.I.R.O.K.I.模型店を見つけた。一歩その店の入口に近づくと、ドアが音もなく開き、カウンターのすみに座っている老人が、やけになれなれしく「よお。」と手をあげた。店の中は、宇宙船などの模型で占められていた。

【物語の一部】※

部アから才や、……………部①から⑨は、あとの問いで取り上げられます。

「ここ、宇宙ものの専門店なの？」
 とさくと、老人は、
 「まあ、そうだ。わしは、他のものには興味がないもんでな。」
 「へえ、ぼくもそう。」
 ぼくは、うれしくなって、ランドセルを床におき、模型に手をのばした。
 「展示品にさわってもいい？」
 「もちろん。」
 緑なし眼鏡の奥で老人は、目を細めた。
 「いま、きみが手にしたやつなんて、なかなかの出来だろう。基本的なデザインはわしが考えたんじゃないよ。」
 それは、全長七センチ、直径三センチほどの卵型の宇宙船の模型で、船首の円錐も、船尾の七つの尾翼も、船体の真ん中につけた大きめの窓も、ア先週、工場の時間に、ぼくが描いた宇宙船の絵にそっくりだった。
 つい夢中になって、
 「これ、もしかしたら二人乗り？」
 「そうだよ。」と、老人はこともなげに言った。
 「でさ、操縦室のほかに、キャビンもひとつ、お風呂とトイレとキッチンがついている？」
 「さよう。」
 「二年分の食料が詰める貯蔵庫は？」
 「あるよ。」
 老人は得意そうにうなずいた。
 「すごいや。」

ふせん

ぼくは、中の様子を見ようと、模型の窓をのぞきこんだ。紺色のシールドがかけられていて、はつきりとはしなかったけれど、ソファやテーブルが見えた。
 「いいなあ。こんなのでほんとうに飛べたらなあ。」
 「この宇宙船は、星と星を旅したり、過去と未来をいったりきたりすることができるんだよ。」
 と、老人は言う。
 ぼくはうっとりしてしまった。
 一億年前の恐竜にも会ってみたいし、一千年後の未来都市も見たい。それがぼくの夢だった。
 「時間の壁を越えさせればいいんだよ。」
 と、老人は言った。
 「ただ、時間の壁を破るには、ものすごいスピードが必要なのじゃ。超光速とってな、光よりも速く飛ばなければならぬ。」
 「じゃあそういう装置を発明すればいいの？ ようし、いつかぼくが作るうって。」
 ①ぼくは、模型の宇宙船をだましました。
 「ねえ、おじいちゃん、この模型はいくらぐらいするの？」
 これだけ精密なものだったら、ずいぶん高いにちがいない。船体も大きいわりには、軽くてふつうのプラスチック製とは思えなかった。時金をはたいても買えるかどうか……。
 「大学の研究室で作ったからなあ……。」
 と、老人はつぶやいて、電卓をはじいた。イぼくは、電卓の緑色の液晶表示板をのぞきこんだ。息がとまりそうだった。オレンジ色の数字は、あんまりに天文学的だったから。
 「ぼくには、ぜんぜん手がでないや。」
 と、うなだれていると、老人は、ぼくの肩をたたいて、
 「模型よりも、本物を見たくないかい？」

「ほんもの？」
 「裏のガレージにある。」
 ぼくは気が動転してしまった。
 「ほんものって？」
 「まあ、ついておいで。」
 老人は、ロボットに店番を頼むと、よっこらしよっと立ちあがり、裏口を開けて、ぼくを手招きした。
 店の裏は野原になっていて、いちめんのススキの海の中にビニールのドーム型ガレージがあった。
 老人は、ススキの穂をかきわけて進んだ。
 かすかに秋の花の匂いがした。
 ガレージはずいぶん大きなもので、老人がパチッと指を二回鳴らすと、ドームの屋根が左右にゆくりと開いていった。
 卵の形をした銀色の船体が横たわっている。ゆるやかな曲線が、午後の日差しをほんしやしてまばゆく輝いた。
 パチッと老人の指がもう一度、鳴った。
 すると、船体からタラップがおりてきて、ドアがあいた。
 ぼくは、老人のあとから宇宙船に足を踏み入れた。
 通路をほざいでキャビンとコックピットに分かれている。
 「これもおじいちゃん作ったの。」
 ぼくの声は、少し震えていた。
 老人はにっこりした。
 コックピットは、とてもシンプルだった。リクライニング式の操縦席の前面のパネルには、コンピュータが埋めこまれて、ボールと小さな振動音をたてていた。

ふせん

キャビンは銀色で統一されたシックな空間で、六畳ほど。ベッドをかねたソファがふたつ壁ぎわに置かれ、真ん中に楕円形のテーブルがある。そして廊下側の壁には、「一枚の老人のポートレートが飾ってあった。写真の老人は、きちんとしたタキシードを着てすましかえていたけれど、まさしくぼくの隣にいる老人だった。」

「これは、わしが、超光速推進（スペーススワープ）装置の発明によって、賞をもらったときの写真なんだ。授賞式が六十九歳の誕生日と重なったりしたもんだから、記念に撮ってもらったんだよ。」

「へえ、おじいちゃんには有名なんだね。」

ぼくは言って、ポートレートの額縁に刻まれた文字を見て、どきっとした。

（ヒロキ・タチバナ教授・科学アカデミー賞受賞記念）と、あったのだ。

「ぼくと同じ名前だ。」
オ同姓同名か……。そんなことは世間ではいくらでもあるが、やはり、ぼくは老人にさらに親近感を深めて、笑いかけた。

宇宙船の外に出ると、老人は言った。

「このワンダーボール一号、気に入ったかね？ この船を見せたかったんだよ。」

ワンダーボール一号。

それは、ぼくが図工の時間に描いた宇宙船、未来から過去へ、過去から未来へ、時間の壁を越えて自由に飛翔するあの宇宙船に、ひそかに付けた名前だ。②だけれども、教えたことがなかったのに。

ぼくはきゆうに不安を感じて、立ちどまった。

③（ひょっとしたら、老人は六十年未来からやってきたぼくか？）

そのとき、老人が、うしろで、

「じゃあな。」

とつぶやいたようだった。

ふりかえると、老人も、宇宙船も模型屋もあどかたもなく消えていた。

ただ、透明な空の青さのなかで、ススキの穂波が銀色に光り、風にそよいでいるだけだった。

（那須田淳「銀色の幻想」による。）

一 森田さんは、ふせんをはったところをもう一度読んでいます。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) 森田さんは、……部①に表れている「ぼく」の気持ちについて考えています。「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを、次の1から5までのの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 模型の宇宙船が手に入らない悲しさ
- 2 本物の宇宙船を手に入れた喜び
- 3 本物の宇宙船を作ることへのあこがれ
- 4 本物の宇宙船を作ることへの不安
- 5 模型の宇宙船を見た感動

(2) 森田さんは、……部②と③から、「老人」は未来の「ぼく」であると考え、他にもそのことが分かるところを探しています。「老人」が未来の「ぼく」であると考えられるところとして適切なものを、次の1から5までのの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 「物語の一部」の —— 部ア
- 2 「物語の一部」の —— 部イ
- 3 「物語の一部」の —— 部ウ
- 4 「物語の一部」の —— 部エ
- 5 「物語の一部」の —— 部オ

二 森田さんは、物語から伝わってくることをまとめ、せいせんする文章を書いています。次は、「森田さんの文章」です。あなたが森田さんなら、Aに入る内容を、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

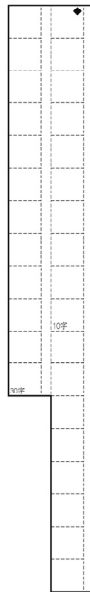
【森田さんの文章】

これは、過去や未来にけるうちゅう船を作りたいと思っている「ぼく」と、そんなうちゅう船を作った「老人」の物語です。
この物語は、「老人」が未来の「ぼく」かもしれないと思わせる表現をさがして読む楽しさを味わうことができます。それだけでなく、この物語を読むと、わたしは前向きな気持ちになります。なぜかという点、「老人」に出会った「ぼく」を通して、この物語がわたしに伝えてくれることがあるからです。それは、

A

- (条件)
○ この物語から伝わってくることを考えて書くこと。
○ 十字以上、三十文字以内にとめて書くこと。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。どちらの行を変えたいで、続けて書きましょう。



三 同じ字数の山村さんも、「銀色の幻想」を読み、せいせんする文章を書いています。次の「山村さんの文章」のBの中に入る内容として最も適切なものを、あとの1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【山村さんの文章】

この物語は、主人公の「ぼく」が自分と同じ名前のもけい店で「老人」と出会うことから始まる。「老人」は、未来の「ぼく」のすがたかもしれないのだが、読者にそう思わせる表現が文章全体に散りばめられている。そのため、読み進めるうちに、物語の世界にどんどん引きこまれていく。そして、最後の一文「ただ、透明な空の青さのなかで、メスキの穂波が銀色に光り、風にそよいでいるだけだった。」は、

B

- 1 色の表現を使い、季節が変わったことを印象づけている。
- 2 「ぼく」が体験した信じられないような出来事を印象づけている。
- 3 空と風を表す表現を使い、「ぼく」が宇宙に行った不思議さを印象づけている。
- 4 「ぼく」が過去から現在にもどってきた安心感を印象づけている。

出題の趣旨

物語を読み、登場人物の気持ちや相互関係に着目して、物語の全体像を想像したり表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる。

物語などを読む際には、「構造と内容の把握」、「精査・解釈」に関する指導事項の系統を踏まえて指導することが重要である。「構造と内容の把握」については、第1学年及び第2学年では、場面の様子や登場人物の行動などを、第3学年及び第4学年では、登場人物の行動や気持ちなどを、第5学年及び第6学年では、登場人物の相互関係や心情などを捉えることが大切である。「精査・解釈」については、第1学年及び第2学年では、登場人物の行動を、第3学年及び第4学年では、登場人物の気持ちの変化や性格、情景を具体的に想像したり、第5学年及び第6学年では、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることが大切である。

本問では、不思議な出来事が描かれている物語を読み、友達と推薦し合うために、「銀色の幻想」という題名の物語を選んで読み、推薦する内容をまとめる場面を設定した。森田さんは、気になるところをもう一度読み、推薦する文章を書いている。ここでは、複数の叙述を基に、登場人物の気持ちや相互関係を捉え、物語全体から伝わってくることを考えることが求められる。また、表現の効果に着目して物語を読んでいる山村さんの視点を通して、最後の一文の効果を考えることも求められる。

なお、本問は、平成29年度【小学校】国語B3三（正答率43.9%）において、「物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめること」に課題が見られたことを踏まえて出題した。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。

設問一(1)

趣旨

登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第3学年及び第4学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
② 一 (1)	1	3・5と解答しているもの(順不同)	68.6	◎
	2	3と解答しているが、5と解答していないもの	17.0	
	3	5と解答しているが、3と解答していないもの	10.7	
	99	上記以外の解答	2.8	
	0	無解答	1.0	

2. 分析結果と課題

- 本設問の正答率は68.6%であった。解答類型2と解答類型3の反応率も踏まえると、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることに課題があると考えられる。
- 解答類型2と、解答類型3の反応率の合計は27.7%である。これらは、「ぼく」の「本物の宇宙船を作ることへのあこがれ」か「模型の宇宙船を見た感動」かのどちらかしか捉えることができなかつたと考えられる。この中には、登場人物の行動や気持ちについて、物語全体を通して、複数の叙述を基に捉えることができなかつた児童がいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える

- 登場人物の行動の背景には、その行動に至るまでの気持ちがある場合が多い。そうした登場人物の気持ちを、行動や会話、地の文などの叙述を基に捉えていくことが求められる。
本設問において、森田さんは、付箋を貼ったところをもう一度読み、友達に推薦する内容を考えている。それは、「ぼく」が「模型の宇宙船をだきしめた」ときの気持ちを明らかにすることが、物語を推薦する上で必要だと考えたからである。本設問では、「ぼくはうっとりしてしまった。」「ようし、いつかぼくが作ろうっと。」など、複数の叙述を基に、「ぼく」が「模型の宇宙船をだきしめた」ときの気持ちを捉えることが求められている。
学習指導に当たっては、本設問のように、登場人物の行動や気持ちを捉えることが必要となる言語活動を設定し、物語全体を見通して、複数の叙述を基に行動や気持ちを捉えることができるように指導することが大切である。その際に、「どこからそう思ったのか」など、捉えたことの基になる叙述を明らかにすることを指導すると効果的である。児童が複数の叙述に着目することができるように、捉えたことと基にした叙述について交流する活動を設定することも考えられる。

設問一(2)

趣旨

登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
②	— (2)	1	1・5と解答しているもの(順不同)	70.8	◎
		2	1と解答しているが、5と解答していないもの	7.1	
		3	5と解答しているが、1と解答していないもの	13.5	
		99	上記以外の解答	7.1	
		0	無解答	1.5	

2. 分析結果と課題

- 解答類型2と、解答類型3の反応率の合計は20.6%である。これらは、「『ぼく』しか知り得ないであろうことを『老人』が知っているかもしれないと考えられる描写」か、「『老人』と『ぼく』に一致する点があると考えられる描写」のどちらかしか捉えることができなかつたと考えられる。この中には、登場人物の相互関係について、物語全体を通して、複数の描写を基に捉えることができなかつた児童がいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

登場人物の相互関係について、描写を基に捉える

- 登場人物の相互関係を捉えるためには、描写に着目しながら読み進めていくことが重要である。登場人物の相互関係は直接的に描写されている場合もあるが、暗示的に表現されている場合もある。このような表現の仕方にも注意し、想像を豊かにしながら読むことが大切になる。

本設問では、「老人」は未来の「ぼく」であるかもしれないという二人の関係が分かる描写を捉える必要がある。森田さんは、推薦する文章で、「ぼく」と「老人」の相互関係が描かれていることを伝えようとしており、そのために、物語全体をもう一度読み、複数の描写に着目して相互関係を捉えようとしている。

学習指導に当たっては、物語の一部分だけを取り上げて登場人物の相互関係について考えるのではなく、物語全体を通して、相互関係について描かれている複数の描写に着目しながら読むことができるように指導することが効果的である。物語の全文が一枚の用紙に掲載されたシートを活用したり、登場人物の相互関係を物語の展開に合わせて人物相関図などに表したりすることなども考えられる。

設問二

趣旨

人物像や物語の全体像を具体的に想像することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
②	二 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① この物語から伝わってくることを考えて書いている。 ② 10字以上、30字以内で書いている。 ~~~~~ (正答例) ・ 夢をもち続けければ、いつかかなえられるということです。(26字) ・ 今を大切にすることが明るい未来につながるということです。(28字) ・ 好きなことをもつ大切さです。(14字)		
	1 条件①、②を満たしているもの	68.5	◎
	2 条件①を満たしているが、条件②は満たしていないもの	0.3	
	99 上記以外の解答	19.1	
	0 無解答	12.1	

2. 分析結果と課題

- 本設問の正答率は68.5%であった。解答類型99と解答類型0の反応率も踏まえると、人物像や物語の全体像を具体的に想像することに課題があると考えられる。設問三の正答率も踏まえると、〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」のエに関する指導事項の定着に課題があると考えられる。
- 解答類型1の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 夢をもつことが大切だということです。(18字)
- ・ 好きなことを続けることが、未来の役に立つということです。(28字)
- ・ 自分の夢を想像する楽しさと夢に向かって進む勇氣です。(26字)
- ・ 想像したことが現実になるかもしれないという希望です。(26字)
- ・ 夢中になったことはきっと未来にも続いていくということです。(29字)
- ・ 未来の自分が今の自分を応援してくれているということです。(29字)
- ・ 未来の自分も活やくしているかもしれないということです。(27字)

このように解答した児童は、森田さんが、前向きな気持ちになることを挙げていることを踏まえて、この物語から伝わってくることを考えて書いていると考えられる。この中には、「うちゅう船を作った『老人』が「未来の『ぼく』かもしれない」という関係などを手掛かりにして、物語の全体像を具体的に想像することができたと考えられる解答が見られた。

- 解答類型99の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 今と未来はつながっていないということです。(21字)
- ・ 未来からきたおばあさんが教えてくれた努力するすばらしさです。(30字)
- ・ 過去や未来にいけるうちゅう船を作りたいということです。(27字)
- ・ ふりかえると老人も宇宙船もあとかたもなく消えていたことです。(30字)

このように解答した児童は、森田さんが、前向きな気持ちになることを挙げていることを踏まえて書いていなかったり、【物語の一部】の内容に基づいて書いていなかったりしている。否定的な内容に終始した解答や物語の内容を捉えることができている解答、【森田さんの文章】や【物語の一部】の付箋が貼ってある部分などを写したと考えられる解答などが見られた。

このことから、森田さんが前向きな気持ちになることを挙げていることを踏まえ、「ぼく」と「老人」の相互関係や「ぼく」の人物像などから物語の全体像を具体的に想像し、この物語から伝わってくることをまとめることができなかつたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

人物像や物語の全体像を具体的に想像する

- 登場人物の人物像を具体的に想像するためには、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方などを総合して判断することが必要である。また、物語の全体像は、登場人物や場面設定、個々の叙述などを基にした物語の世界や人物像などを豊かに想像したり、登場人物の相互関係を手掛かりにして考えたりすることで捉えられる。このように、「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読むことが、物語の全体像を具体的に想像するために重要である。

本設問では、森田さんが物語を推薦する理由として、前向きな気持ちになることを挙げている。それは、「老人」に出会った「ぼく」を通して、物語全体から感じていることである。森田さんは、「ぼく」と「老人」との相互関係や「ぼく」の人物像を手掛かりにして、物語の全体像を具体的に想像して推薦する文章に書いている。

学習指導に当たっては、着目した叙述を複数取り上げ、そこから考えられることをノートやワークシートにまとめたり、考えたことを交流したりすることで物語の全体像を明確にすることが効果的である。

設問三

趣旨

表現の効果を考えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
②	三	1	1 と解答しているもの	8.4	
		2	2 と解答しているもの	59.4	◎
		3	3 と解答しているもの	21.1	
		4	4 と解答しているもの	7.7	
		99	上記以外の解答	0.3	
		0	無解答	3.2	

2. 分析結果と課題

- 本設問の正答率は59.4%であった。表現の効果を考えることに課題があると考えられる。
- 解答類型1は、色の表現を使っていることを捉えることはできているが、季節が変わる展開ではないため、物語の全体像と関わらせながら表現の効果を考えることができなかったと考えられる。
- 解答類型3は、空と風の表現を使っていることを捉えることはできたが、「ぼく」が宇宙に行った話ではないため、物語の全体像と関わらせながら表現の効果を考えることができなかったと考えられる。

3. 学習指導に当たって

表現の効果を考える

- 表現の効果を考えるとは、想像した人物像や全体像と関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにしていくことである。

本設問では、山村さんは物語全体を通して、「ぼく」が出会った「老人」が、過去や未来に行ける宇宙船を作った未来の「ぼく」かもしれないと思わせる表現に着目しながら読み進めている。そして、「ただ、透明な空の青さのなかで、ススキの穂波が銀色に光り、風にそよいでいるだけだった。」という最後の一文が、「ぼく」が体験した信じられないような出来事を印象付けているという表現の効果について考えている。

学習指導に当たっては、第3学年及び第4学年の「エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること」と、第5学年及び第6学年の「エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」を系統立てて指導することが大切である。また、表現の効果を考えることができるようにするためには、感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目して読むことを指導すると効果的である。

本問全体の学習指導に当たって
授業アイデア例

「不思議な出来事が描かれている物語を読み、友達とすいせんし合おう」 ～登場人物の相互関係や心情に着目し、人物像や物語の全体像を想像する～	〈実施対象学年〉 第5・6学年
---	--------------------

本授業アイデア例では、令和4年度全国学力・学習状況調査【小学校】国語²で取り上げた物語「銀色の幻想」を活用した指導事例を単元の学習の流れに沿って紹介します。

◇ 教師は、単元で取り上げる指導事項を明確にし、児童の学習の経験などを踏まえて、単元の学習の流れを考えています。

不思議な出来事が描かれている物語を読み、友達と推薦し合う

【学習の流れ】
選んだ本を活用する学習の例

- ① 学習の見通しをもつ。
- ② 気になる本を数冊読み、自分が推薦する物語を決める。
- ③ 選んだ物語を読み、気になるところに付箋を貼り、登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉える。
- ④⑤ 物語の全体像を具体的に想像し、推薦する文章を書く。
- ⑥ 友達を書いた推薦する文章を読んで交流する。
- ⑦ 友達が推薦した物語を読み、単元全体を振り返る。

【学習の流れ（別案）】
共通教材を活用する学習の例

- ① 学習の見通しをもつ。
- ② 共通教材（教科書教材等）を読み、友達に推薦することを意識して気になるところに付箋を貼り、交流する。
- ③ 登場人物の相互関係について描写を基に捉える。
- ④⑤ 物語の全体像について考え、推薦する文章を書く。
- ⑥ 友達が書いた推薦する文章を読んで交流し、単元全体を振り返る。

この単元では、〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の「精査・解釈」に関する指導事項を重点的に取り上げ、定着を図ることにしよう。友達と推薦し合うという言語活動を設定し、不思議な出来事が描かれている物語を取り上げることで、物語の全体像や表現の効果を考えることができるようにしよう。



教師

この学級の児童は、共通教材を読んで、登場人物の人物像など物語全体から考えたことを推薦する学習（【学習の流れ（別案）】）の経験がある。だから、今回は、選んだ本を活用する流れ（【学習の流れ】）を進めていこう。学校司書さんにも相談して、様々な描写から人物像や全体像を想像できる物語をいくつか選んでおこう。

ポイント

年間指導計画等を基に、単元で取り上げる指導事項を明確にすることが重要です。取り上げる指導事項を基に、単元の目標と評価規準を設定し、単元の目標を実現するために適した言語活動を、児童の学習の経験や状況を踏まえて位置付けることが大切です。また、資質・能力の三つの柱の関連を図り、指導の効果を高めることが求められます。本授業アイデア例では、〔知識及び技能〕の(3)オの読書に関する指導事項や「学びに向かう力、人間性等」に関する目標との関連を図り、指導の効果を高めるために、意図的に2時間目と7時間目に、選んだ本を読む活動を設定しています。

◇ 森田さんたちは、不思議な出来事が描かれている物語を読み、推薦する文章を書いて友達と推薦し合うことにし、どのような観点で物語を読むか考えています。

【板書の例】



教師

みなさんは、これまでに不思議な出来事が描かれている物語を読んだことはありますか。



山村さん

動物と人間が交流したり、恩返ししたりする話を読んだことがあります。動物と人間の関係が面白かったです。



森田さん

あるきっかけで不思議な世界に行き、事件を解決して戻ってくる話を読んだことがあります。他にも、もっと読んでみたいです。



それでは、不思議な出来事が描かれている物語を友達と推薦し合うことにしましょう。これまでの経験として、物語を紹介したり推薦したりするときは、どのようなことを大切にしてみましたか。



その物語ならではの特徴や面白さを伝えることを大切にしました。物語の展開や登場人物同士の関係などに着目しました。



物語の展開や人物同士の関係は、複数の言葉や文を手掛かりにして考えることが大事だったと思います。



これまでに学習したことを読む観点にして、不思議な出来事が描かれている物語を読んで、友達と推薦しましょう。今回の学習では、森田さんが言ってくれたように、複数の言葉や文を基にして、物語全体を通して描かれていることを推薦できるようにしましょう。
今回は、図書先生に物語を紹介していただき、推薦したい物語を選びましょう。

めあて
不思議な出来事が描かれている物語を読み、友達とすすいせんしあおう。

学習の計画

- ① 見直しをもつ
- ② 物語を選んで読む
- ③ 人物同士の関係や人物像を考える
- ④ ⑤ 物語全体を通してえがかれていることを考えてすすいせんする文章を書く
- ⑥ すいせんする文章を読んで交流する
- ⑦ 単元全体をふり返る

「どんな物語か」を伝えるときは

- ★登場人物の行動、気持ちの変化
- ★登場人物の人物像
- ★登場人物同士の関係
- ★物語の展開
- ★様々な表現

などに着目

物語全体を通してえがかれている

★この学習で特に着目するポイント

ポイント

読むことの単元では、本と出合う導入の場面が重要です。単元で取り上げる指導事項や言語活動を踏まえて本を選ぶことや、児童の実態を踏まえて冊数やページ数などを考慮することが大切です。教師が、司書教諭・学校司書等と連携して、本を用意したり、ブックトーク等で紹介したりすることなども考えられます。

これまでに物語を推薦した経験などを想起しながら、読む目的や読みの観点（登場人物の人物像、登場人物の相互関係、物語の展開、表現の効果など）を明確にできるようにすることが大切です。

③/7

登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉える

◇ 森田さんは、登場人物の相互関係に着目して「銀色の幻想」を読み、【全文を掲載したシート】を活用し、付箋を貼りながら、「ぼく」と「老人」の相互関係について考えています。さらに、同じ物語を選んだ友達と交流しながら、付箋を付け足しています。

【全文を掲載したシートの例(一部)】

「ぼくは、宇宙ものの専門店なの？」
「まあ、そうだ。わたしは、他のものには興味がないんだ。」
「へえ、ぼくもそう。」
「ぼくは、うれしくなって、ソンドセルを床にお
「展示品」さわってみたい？」
「もあるよ。」
「いま、おじいちゃん、目を細めた。
「考えたんだよ。」
「それは、全長三十センチ、直径三十センチほどの楕円の宇宙船の模型で、船首の円蓋も、船底の七つの窓の中、キリンの真ん中にけた大あめ型の窓も、先頭座席の隣にも、ぼくが描いた宇宙船の絵にそっくりだった。」
「それ、かきたら二人乗り？」
「そうだよ。」
「でも、操縦室のほかに、キリンはひとつ、お風呂とトイレとキッチンがついている？」
「二年分の食料がつめる貯蔵庫は？」
「あるよ。おぼろげにうなずいた。
「すこいや。」

「だれにも、教えたことがない
↓「老人」は未来の「ぼく」かもしれない

「同姓同名
↓同一人物かもしれない

【物語の一部】は、野上皖編『ものがたり12か月 秋ものがたり』
(2008年9月 偕成社) 収録 那須田洋『銀色の幻想』による。
問題作成の都合上、一部表記を改めたところがある。



森田さん

僕は、人物の関係に着目したよ。ここに「だれにも、教えたことがなかったのに。」「(ひょっとしたら、老人は六十年未来からやってきたぼく?)」と書かれているんだ。ここから、「老人」は未来の「ぼく」かもしれないと考えたよ。他にも二人の関係が分かるころはあるかな。



山村さん

ほら、ここにも「先週、図工の時間に、ぼくが描いた宇宙船の絵にそっくりだった。」と書かれているよ。「ぼく」と「老人」が何か関係があることを遠回しに描いているのではないかな。



私もそう思う。他にも、「ぼく」がポートレートの額縁に刻まれた文字を見たところで、「同姓同名か……。」という文があるよ。ここからも、「老人」と「ぼく」が同一人物かもしれないと読むことができるよ。



そうだね。「ぼく」と「老人」の関係が描かれているところに着目して物語を読み進めていくと、二人が同一人物であることが遠回しに描かれていることも分かるね。それがこの物語の魅力の一つだと思うな。



教師

登場人物同士の関係は、物語全体を通して描かれている場合が多いですね。森田さんたちが気付いたように、登場人物同士の関係が分かる描写をいくつも見付けて考えることが大切です。

ポイント

登場人物の相互関係は直接的に描写されている場合もありますが、暗示的に表現されている場合もあります。登場人物の相互関係に基づいた行動や会話、情景などに注意して読むことを促し、捉えることができるように指導することが効果的です。
自分一人の読みでは気付かないことでも、交流することで気付くことがあります。ここで取り上げた森田さんが、「ぼく」と「老人」の関係を捉えたいという目的をもって、目的意識をもって交流できるようにすることが大切です。

④⑤／7

物語の全体像を具体的に想像し、推薦する文章を書く

◇ 教師は、児童の状況を踏まえ、物語の全体像について想像したことを、どのように推薦する文章に書くかについて、学級全体で考えてみることにしました。

【板書の例】

物語の全体像

「どのような物語か」を伝えるときは

- ★登場人物の人物像
- ★登場人物同士の関係
- ★物語の展開
- ★様々な表現

などに着目

物語全体を通してえがかれている

めあて
 不思議な出来事がえがかれている物語を
 すいせんするために、物語の全体像を考えよう。

「どのよう～えがかれているか」を伝えるために使う言葉の例

- という一文が
～を印象づけている。
- な表現が文章全体に
散りばめられている。
- を味わうことができる物語
- を通して、
○○が伝わってくる物語



森田さん

「ぼく」と「老人」が同一人物かもしれないということが、物語全体を通して遠回しに描かれていて、それが、この物語の魅力の一つだと思うな。でも、そのことを推薦する文章で伝えるのが難しいなあ。



教師

森田さんが悩んでいることは、他の物語にも関係することなので、みんなで考えてみましょう。みなさん、物語全体を通して描かれていることを、どのように伝えますか。これまでの学習も思い出してみてください。



山村さん

私は、最後の一文がとても印象に残ったので、「○○という一文が、～を印象づけている。」というようにまとめようと思っています。



前に、「○○な表現が文章全体に散りばめられている。」や「○○を味わうことができる物語」という言葉を使ってまとめました。



なるほど。僕は、登場人物の関係が面白かったので、「この物語は、登場人物同士の関係が表されている表現を探しながら読む楽しさを味わうことができる物語」といった感じで推薦してみようと思います。



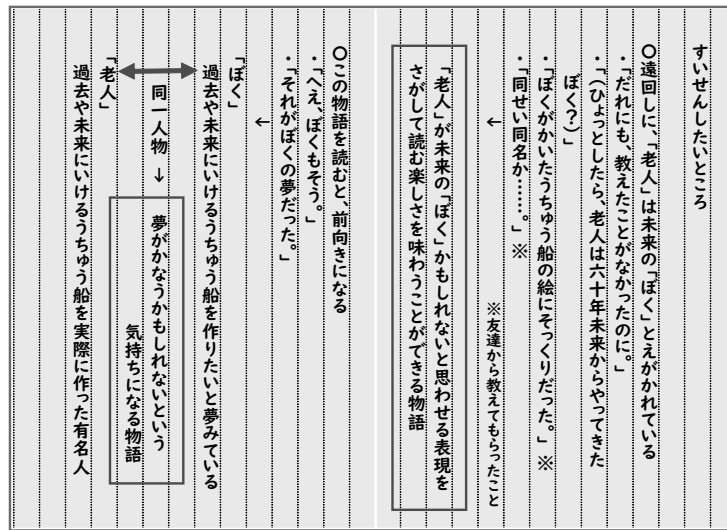
ポイント

「どんな物語か」ということだけでなく、「どのように描かれているか」ということにも着目することで、物語の全体像を具体的にイメージすることができ、その物語ならではのよさが明らかになりますね。それでは、「どんな物語か」、「どのように描かれているか」ということに着目して、選んだ物語の全体像を改めて考えて、まとめてみましょう。

物語の全体像を想像する場合、「どんな物語か」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目できるようにすることが大切です。そのためには、推薦する文章をまとめる際に使う言葉などを具体的に考えることができるようにすると効果的です。

◇ 森田さんは、物語の全体像を想像し、同じ物語を読んだ友達と交流して考えを深めています。

【森田さんのノートの一部】



森田さん

僕は「だれにも、教えたことがなかったのに。」と「(ひょっとしたら、老人は六十年未来からやってきたぼく?)」の文や、みんなから教えてもらった文から、遠回しに「老人」は未来の「ぼく」と描かれているところがいいと思ったので、そのことを推薦する文章に書こうと思っているんだ。



山村さん

森田さんは、どうして遠回しに「老人」は未来の「ぼく」と描かれているところがいいと思ったのかな。



「老人」が未来の「ぼく」かもしれないという二人の関係が、物語全体に描かれてあって、それを探しながら読むことが楽しいと思ったからだよ。それだけでなく、この物語を読むと、前向きな気持ちになれることが魅力だと思うんだよな。そのことも推薦する文章に書こうかなあ。



森田さんは、どうしてそういう気持ちになったの？



「へえ、ぼくもそう。」というところから、「ぼく」は「宇宙もの」が大好きということが分かったり、「それがぼくの夢だった。」というところから、「ぼく」が宇宙船を作りたいと思っていることが伝わってきたりするでしょ。そんな「ぼく」と、実際に宇宙船を作った「老人」が同一人物かもしれないと考えたら、夢がかなうかもしれないという気持ちになるんだ。



今、森田さんが話してくれたことは、私は気付かなかったな。ぜひ、そのことも推薦する文章に書くといいと思うよ。

ポイント

物語の全体像は、「登場人物の人物像」や「登場人物の相互関係」、「物語の展開」などの複数の観点から読むことで、想像することができます。
気になる叙述を基にして、考えたことを交流する場面を設定することで、全体像をより具体的に捉えることができるようにすると効果的です。

◇ 森田さんたちは、同じ物語を読んだ友達と推薦する文章を読み合い、さらに、他の物語を読んだ友達とも読み合うことにしました。



教師

物語の魅力をどのように捉えたかについて、共通点や相違点は何かを考えながら、同じ物語を読んだ友達と推薦する文章を読み合みましょう。

読み終わった後も物語の世界にひたることのできるおすすめ作品だ。

【山村さんが書いた推薦する文章】

これは、過去や未来にいけるうちゅう船を作りたいと思っている「ぼく」と、そんなうちゅう船を作った「老人」の物語です。

この物語は、「老人」が未来の「ぼく」かもしれないと思わせる表現をさがして読む楽しさを味わうことができます。それだけでなく、この物語を読むと、わたしは前向きな気持ちになります。なぜかという、「老人」に出会った「ぼく」を通して、この物語がわたしに伝えてくれることがあるからです。それは、夢をもち続けられ、いつかかなえられるということです。

【森田さんが書いた推薦する文章】

「銀色の幻想」を、「老人」は未来の「ぼく」かもしれないと考えて読んだ点は、山村さんと共通していたね。山村さんが最後の一文に着目したところが、なるほどなと思ったよ。読み終わった後に物語の世界にひたることのできるのは、「ぼく」が体験した信じられない出来事を情景として表しているからだという考えに納得したよ。何度も出てくる「ススキ」や題名にも関連する「銀色」という表現に何か意味がありそうなので、もう一度読んで考えてみたいな。



森田さん



山村さん

私は、森田さんの推薦する文章を読んで、「銀色の幻想」は、ただ不思議な出来事が描かれている物語というだけでなく、「夢をもち続けられ、いつかかなえられる」のように前向きな気持ちにさせてくれるところも、この物語のよさなのだとことに気付かされたよ。



同じ物語なのに、人によって読み方が違って面白いな。他の物語を読んだ友達は、魅力をどのように捉えたのかな。



では、他の物語を読んだ友達とも、推薦する文章を読み合ひましょう。



大野さん

森田さんは、「銀色の幻想」を読んで、前向きな気持ちになっただね。私が読んだら、どんな気持ちになるのかな。「銀色の幻想」をじっくり読んでみたくなったよ。



森田さん

大野さんの推薦する文章を読んでいると、とても興味深いね。「銀色の幻想」のような読み方をしたら、どんなことが伝わってくるのかな。山村さんのように表現の効果に着目した読み方もしてみたいな。



次の時間は、友達の読み方を参考にしながら、もう一度同じ物語を読んだり、他の物語も読んだりして、単元全体を振り返りましょう。

【6時間目の森田さんの振り返り】



登場人物の気持ちや人物の関係、情景など、物語全体の様々なことを結び付けて考えたことで、物語の世界をより豊かに想像することができるようになりました。

次の時間に他の本を読むときには、表現の効果に着目することも意識していきたいです。

【活用のポイント】

- 本授業アイデア例のように、児童の学習の経験にに応じて、学習の展開を工夫することが大切です。
- 本授業アイデア例のように、令和4年度全国学力・学習状況調査【小学校】国語²の【物語の一部】、【森田さんの文章】、【山村さんの文章】を教材として活用して、学習を展開することが考えられます。

※出典等

【物語の一部】は、野上暁編『ものがたり12か月 秋ものがたり』（2008年9月 偕成社）収録 那須田淳『銀色の幻想』による。問題作成の都合上、一部表記を改めたところがある。

国語 3 経験を基に考えたことを書く (六年生としてがんばりたいこと)

3 島谷さんの学級では、「六年生としてがんばりたいこと」を書くことになりました。次は、島谷さんが最初に書いた【文章1】と書き直した【文章2】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章1】

わたしは、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた、みんなにそうじ用具の正しい使い方を教えてほしい、という思いをもち、正しく使うことができてくる学級の様子を早くがし、各学級にしようかいたという活動がすばらしいと思いました。この話を聞き、五年生の時にさっぱり委員会で行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをいんせいました。わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人もわしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいたいです。

【文章2】

わたしがこの一年間でがんばりたいことは、運動委員としてみんなのことを考えた新たな活動を進めることです。その考え方は、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた、活動への思いがすばらしいと思ったからです。南さんは、みんなにそうじ用具の正しい使い方を教えてほしいという思いをもち、正しく使うことができてくる学級の様子を早くがし、各学級にしようかいたいです。この話を聞き、五年生の時にさっぱり委員会で行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをいんせいました。わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人もわしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいたいです。

- 1 自分の考えが明確に伝わるように、自分の考えを最初に書いている。
- 2 自分の考えが明確に伝わるように、引用すること、書き出しをくふうしている。
- 3 他人が読みやすいように、事実と感想とを区別して、書き出しを書いている。
- 4 他人が読みやすいように、自分の考えとその理由を最初に書いている。

二 島谷さんは、川口さんと【文章2】を読み合い、感想を伝え合いました。次の【伝え合いの様子】の一部をよく読み、あとの問いに答えましょう。

【伝え合いの様子の一部】

島谷さん 私のがんばろうとしていることが伝わるかな。

川口さん 伝わってきたよ。それは、上級生が話してくれたことや、委員会で活動したことをもたしているからだね。

島谷さん それはよかった。他に気づいたことはあるかな。

川口さん 最後の段落がいいね。なぜかという点、最初の段落の内容をより具体的に書いているから、今年がんばろうとしていることがくわしく伝わってきたよ。

島谷さん ありがとう。自分でもふり返ってみるね。次は、川口さんの文章を読んだ感想を伝えるね。

く (伝え合いが続く) く



(問い) 島谷さんは、川口さんと伝え合ったことをもとに、自分の文章のよさをふり返り、書くことになりました。あなたが島谷さんなら、どのようなよさを書きますか。次の条件に合わせて書きましょう。

- (条件)
- 【文章2】のよさを書くこと。
- 【文章2】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十文字以上、百字以内にとめて書くこと。

※左の縦用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。 ※◆の印から書きましょう。どちらうで行を変えないで、続けて書きましょう。

Vertical writing grid with dashed lines and a 100-character marker.

三 鳥谷さんは、「文章2」を読み、習っている漢字がひらがなになっていた。部ア、イ、ウを漢字に書き直すことにしました。

次の部アを漢字でいねいに書きましょう。

南さんは、みんなにそうじ用具の正しい使い方を教えてほしいという思いをもち、正しく使うことができている学級の様子をアろくがして、各学級にしようかいしたそうです。

次の部イを漢字でいねいに書きましょう。

そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをイはんせいしました。

次の部ウを漢字でいねいに書きましょう。

運動が苦手な人もウしたしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいしたいです。

四 鳥谷さんは、「六年生としてがんばりたいこと」を手紙で伝えたいと思い、(一)を書きました。そして、相手の読みやすさを考えて(二)のように書き直しました。鳥谷さんが書き直すときに気をつけた内容として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

(一)

うららかな春の日が続いています。
いかがお過ごしてしょうか。
わたしは今年、六年生としてがんばりたいことがあります。

(二)

うららかな春の日が続いています。
いかがお過ごしてしょうか。
わたしは今年、六年生としてがんばりたいことがあります。

- 1 どのやはねの書き方
- 2 文字の大きさ
- 3 文字と文字との間
- 4 行の中心

出題の趣旨

文章全体の構成に着目して文章を整えたり、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けたりすることができるかどうかをみる。

読み手に自分の考えを明確に伝えるためには、自分で書いた文章を読み返し、文や文章を整えることが必要である。その際、第5学年及び第6学年においては、内容や表現に一貫性があるか、目的に照らして適切な構成や記述になっているか、事実と感想、意見とが区別して書かれているか、引用の仕方、図表やグラフの用い方は適切かといったことなどを観点として、文や文章を整えることが大切である。

また、推敲で取り上げた観点を含め、様々な観点で互いの書いた文章を読み合い、感想や意見を伝え合うことによって、他者の文章のよいところを見付けるだけでなく、自分の文章のよいところを見付けることができるようにすることが大切である。

本問では、「六年生としてがんばりたいこと」を書く場面を設定した。島谷さんは、自分の考えが明確に伝わるように、文章を書き直したり、友達の川口さんと書いた文章を読み合い、感想を伝え合ったりしている。ここでは、文章全体の構成に着目して文章を整えたり、伝え合った感想や意見を基に、自分の文章のよいところを書いてまとめたりすることが求められる。また、相手の読みやすさを考えて漢字を正しく書くことや、行の中心に注意して書くことも求められる。

なお、設問二では、〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の「共有」に関する指導事項を取り上げている。この指導事項を本調査で取り上げることは初めてである。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

ウ 事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。

設問一

趣旨

文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと
オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
③	1	1 と解答しているもの	59.4	◎
	2	2 と解答しているもの	15.3	
	3	3 と解答しているもの	7.5	
	4	4 と解答しているもの	15.1	
	99	上記以外の解答	0.2	
	0	無解答	2.5	

2. 分析結果と課題

- 本設問の正答率は59.4%であった。文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに課題があると考えられる。ここでは、島谷さんが、自分の考えが明確に伝わるように、文章全体の構成に着目して文章を整え、自分の考えを最初に書いていることを捉える必要がある。
- 解答類型2は、自分の考えが明確に伝わるように書いていることは捉えているが、引用して書くことと自分の考えを書くこととの区別ができなかったと考えられる。
- 解答類型4は、文章全体の構成に着目して文章を整えていることは捉えているが、考えの理由を最初には書いていないことを捉えることができなかつたと考えられる。この中には、最初に書き加えたことの意図を捉えることができなかつた児童もいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える

○ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えるとは、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討」、「考えの形成、記述」の指導事項を観点として、文や文章を推敲することである。第5学年及び第6学年においては、文章全体を見たときに、内容や表現に一貫性があるか、目的や意図に照らして適切な構成や記述になっているか、事実と感想、意見とが区別して書かれているか、引用の仕方、図表やグラフなどの用い方は適切かといったことなどを観点として推敲することが重要となる。

本設問では、島谷さんが「六年生としてがんばりたいこと」というテーマで書いた【文章1】を推敲し、自分の考えが明確に読み手に伝わるように、文章全体の構成に着目して文章を整え、自分の考えを最初に書いていることを捉えることが求められる。

学習指導に当たっては、書く相手や目的に応じて自分が書いた文章を読み直し、整えることができるように指導することが大切である。その際、読み手にとって分かりやすい文章

にしたり、自分の伝えたいことをより明確にしたりすることを意識し、推敲する必要性を感じることができるようにすることが重要である。

また、推敲する際には、観点を明確にすることが重要である。観点を設定する上では、〔思考力、判断力、表現力等〕の推敲に関する指導事項の系統を踏まえることが大切である。また、第1学年及び第2学年においては、〔知識及び技能〕の(1)ウにおける表記の仕方や使い方などとの関連を図ることで、指導の効果を高めることが考えられる。

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
〔思考力、判断力、表現力等〕 B 書くこと 推敲	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。	エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。	オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。

さらに、間違いに気付いて正したり、構成や書き表し方の適切さを確かめたりして、整った文章になったことを児童が自覚し、「推敲してよかった」という実感が得られることが大切である。他教科等の学習においても、文や文章を整えることを働き掛け、推敲することのよさを感じられるようにすることが考えられる。推敲することが習慣になるように、働き掛けることが重要である。

ICTを活用して推敲する(学習活動の例)

ここでは、本設問を活用して、文章の構成を推敲する学習活動の例を以下に示す。文書作成ソフト等を用いることで、文を書き加えたりコピーしたりすることができるなどのICTのよさを生かした例である。



この構成で、私の考えがみんなにちゃんと伝わるかな。最後の段落を切り取って、はじめにもってくるか…そもそも、私がいちばん伝えたいことは何かと言うと…

【文章1】

わたしは、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた、みんなにそうじ用具の正しい使い方を知ってほしいという思いをもち、正しく使うことができている学級の様子をろくがして、各学級にしようかいしたという活動がすばらしいと思いました。

一文が長い

この話を聞き、五年生の時にさいばい委員会で自分が行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをはんせいしました。

わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人もしたしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいしたいです。

いちばん伝えたいこと



いちばん伝えたいことを文章のはじめに書けば、読む人の印象に残るかな。それと、南さんの話のところの一文が長いから直したいな。

書き直した【文章2】

わたしがこの一年間でがんばりたいことは、運動委員としてみんなのことを考えた新たな活動を進めることです。

そう考えたのは、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた、活動への思いがすばらしいと思ったからです。南さんは、みんなにそうじ用具の正しい使い方を知ってほしいという思いをもち、正しく使うことができている学級の様子をろくがして、各学級にしようかいしたそうです。

この話を聞き、五年生の時にさいばい委員会で自分が行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをはんせいしました。

わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人もしたしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいしたいです。



いちばん伝えたいことをはじめに書いたことで、改めて自分の考えがはっきりしたな。これで、自分の考えがより伝わると思うな。

設問二

趣旨

文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
③	二 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 【文章2】のよさについて以下のことを書いている。 a 聞いたことや経験したことをもとにしていること b 最後の段落にがんばりたいことを具体的に書いていること c a、b以外のこと ② 【文章2】から言葉や文を取り上げて書いている。 ③ 60字以上、100字以内で書いている。		
	(正答例) ・ わたしの文章のよさは、今年がんばりたいことを伝えるために、南さんの話や、さいばい委員の活動で反省したことを書いたり、運動委員として進めたい新たな活動を、最後のだん落に具体的に書いたりしたところです。(99字) (解答類型1) ・ わたしの文章のよさは、自分の経験したことをもとに書いたところです。五年生の時のさいばい委員会での自分の活動をもとに六年生で取り組みたいことを書くことで、がんばりたいという思いを伝えることができました。(100字) (解答類型4) ・ 最後のだん落に「運動が苦手な人にも親んでもらえるように、ルールや道具をくふうしたおに遊びやボールゲームを各学級にしようかしたい」と、一年間でがんばりたいことを具体的に書いたところが文章のよさです。(100字) (解答類型7) ・ わたしの文章のよさは、最初のだん落で「この一年間でがんばりたいことは、運動委員としてみんなのことを考えた新たな活動を進めることです」と書くことで、読む人に六年生としての決意を伝えようとしたところです。(100字) (解答類型10)		
	1 条件①、②、③を満たしているもののうち、条件①については、a、bの両方を書いているもの	1.9	◎
	2 条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもののうち、条件①については、a、bの両方を書いているもの	0.0	
3 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもののうち、条件①については、a、bの両方を書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	1.1		

4	条件①、②、③を満たしているもののうち、条件①については、 aを書いているもの	15.6	◎
5	条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもののうち、 条件①については、aを書いているもの	0.3	
6	条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもののうち、 条件①については、aを書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	2.8	
7	条件①、②、③を満たしているもののうち、条件①については、 bを書いているもの	5.1	◎
8	条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもののうち、 条件①については、bを書いているもの	0.0	
9	条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもののうち、 条件①については、bを書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	1.7	
10	条件①、②、③を満たしているもののうち、条件①については、 cを書いているもの	15.2	◎
11	条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもののうち、 条件①については、cを書いているもの	0.4	
12	条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもののうち、 条件①については、cを書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	4.3	
13	条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	28.3	
99	上記以外の解答	8.8	
0	無解答	14.4	

2. 分析結果と課題

- 本設問の正答率は、解答類型 1、4、7、10の合計の、37.9%であった。文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題があると考えられる。
- 正答の中では、解答類型 4の反応率が高い。具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ わたしの文章のよさは、五年生の時の美化委員長の南さんが、卒業する前に話してくれた活動への思いがすばらしいと思ったことをもとにして文章を書いているところです。(78字)

このように解答した児童は、【文章 2】のよさとして、「聞いたことや経験したことをもとにしていること」を書き、【文章 2】から言葉や文を取り上げて、60字以上100字以内で書いている。

この中には、【伝え合いの様子の一部】で川口さんが指摘している「上級生が話してくれたことや、委員会で活動したことをもとにしている」というよさを踏まえて考えた児童がいたと考えられる。

- 解答類型10の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ わたしの文章のよいところは、最初に、「この一年間でがんばりたいことは」と自分の考えをはっきり書いてから、その次に、「そう考えたのは」と考えの理由を書いたところです。(82字)

このように解答した児童は、【文章2】のよさとして、「聞いたことや経験したことをもとにしていること」と「最後の段落にがんばりたいことを具体的に書いていること」以外のことを書き、【文章2】から言葉や文を取り上げて、60字以上100字以内で書いている。例えば、文章全体の構成や展開について取り上げている解答などが見られた。

この中には、【伝え合いの様子の一部】で川口さんが指摘しているよさを踏まえた上で、他にも自分なりによさを考え、見付けた様々なよさの中から、よりよいものを選んで書いた児童がいたと考えられる。一方で、【伝え合いの様子の一部】で川口さんが指摘しているよさは踏まえずに、これまでに学習した経験などを基にして、自分なりによさを考えた児童もいたと考えられる。

- 解答類型13の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ わたしは、五年生の時、美化委員長の南さんの話を聞き、さいばい委員会で自分が行った活動をふり返って、みんなのために新たな活動を提案できなかったことを反省しました。(80字)

このように解答した児童は、【文章2】から言葉や文を取り上げている。しかし、【文章2】のよさについて書いていない。このことから、島谷さんと川口さんの【伝え合いの様子の一部】の内容を踏まえるなどして、【文章2】のよいところを見付けることができなかつたと考えられる。

この中には、【伝え合いの様子の一部】の内容を踏まえずに、【文章2】だけを見て、そのよさを考えずに文字数に合わせて語や文を書き写すことにとどまっている児童がいたと考えられる。また、【文章2】のよさを考えることはできたが、それを言葉に表すことができなかつた児童もいたと考えられる。

いずれの場合においても、互いの書いた文章を読み合い、具体的に感想や意見を伝え合うことを通して、よさを見付けたり、よさを言葉に表したりすることができるように指導することが必要であると考えられる。

3. 学習指導に当たって

文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける

- 「共有」に関する指導事項の定着を図るためには、互いの文章に対する感想や意見を伝え合うことを通して、自分の文章のよいところを見付けることができるように指導することが重要である。自分の文章のよいところとは、第1学年及び第2学年では、「内容や記述などに見られる具体的なよさ」、第3学年及び第4学年では、「書こうとしたことの明確さ」、第5学年及び第6学年では、「文章全体の構成や展開の明確さ」などである。

本設問では、「六年生としてがんばりたいこと」を伝えることが目的であり、【伝え合いの様子の一部】において、島谷さんは、「私のがんばろうとしていることが伝わるかな」と川口さんに聞いている。また、【伝え合いの様子の一部】の川口さんのように、「最後の








段落がいいね。なぜかというと、～」というように、よいところを具体的に言葉で表している。

学習指導に当たっては、伝え合う経験を積み重ねていくことで、自分の文章のよいところを見付けたり、それを言葉で表したりする指導が大切である。本設問のように、自分が書いた目的や意図を相手に伝えたり、感想や意見を具体的に伝え合ったりすることができるように指導すると効果的である。

さらに、互いの文章を読み合うことで、経験の取り上げ方や言葉の選び方、書き方の工夫を認め合い、自分の表現に生かそうとすることも大切である。自分の文章のよいところを見付ける経験を重ねることが望まれる。

具体的に感想や意見を伝え合い、伝え合ったことを基にして自分の文章のよさを書くことができるようにするための指導事例を次の「授業アイデア例」に示す。

授業アイデア例

「六年生としてがんばりたいこと」 ～文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける～		〈実施対象学年〉 第5・6学年
<p>本授業アイデア例では、ペアで伝え合っている様子を教師が確認し、その状況に応じて、指導したり評価したりする指導事例を紹介します。</p>		
 <p>みなさんはこれまで、「六年生としてがんばりたいこと」を明確に伝えるために、文章全体の構成や書き表し方を工夫して書いてきましたね。 この時間は、みなさんが書いてきた文章を読み合っ、感想や意見を伝え合い、友達の文章や自分の文章のよいところを見付けましょう。</p>		
ペア1	文章全体の構成や展開について伝え合っている例	
 島谷さん	<p>がんばりたいことが明確に伝わるように、自分の考えを最初に書いてみたんだけど、どうかなあ。</p>	
 川口さん	<p>最後の段落で、最初の段落の内容をより具体的に書いているから、今年がんばろうとしていることが詳しく伝わってきたよ。私も、こんなふうを書いてみたいな。</p>	<p>【島谷さんが書いた文章】</p> <p>わたしがこの一年間でがんばりたいことは、運動委員としてみんなのことを考えた新たな活動を進めることです。そう考えたのは、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた、活動への思いがすばらしいと思ったからです。南さんは、みんなにそうじ用具の正しい使い方を知ってほしいという思いをもち、正しく使うことができている学級の様子を録画して、各学級にしようかいしたそうです。</p> <p>この話を聞き、五年生の時にさいばい委員会で行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことを反省しました。</p> <p>わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人も親しむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいしたいです。</p>
 島谷さん	<p>よかった。他に気付いたことはあるかな。</p>	
 川口さん	<p>五年生の時の反省を生かして、新しい活動を提案することを考えていいよね。上級生が話してくれたことや、委員会で活動したことを基にしているから、更にながらみたいことが伝わってきたよ。</p>	
 島谷さん	<p>自分ががんばりたいことや工夫して書いたところが伝わってうれしいな。詳しく書いてよかった。次は、川口さんの文章を読んだ感想を伝えるね。</p>	
 ポイント	<p>川口さんは、よさに気付いたり、自分の表現に生かそうとしたりしているな。島谷さんも、自分の文章の構成のよさを見付けることができているな。このペアはこのまま伝え合わせよう。</p>	
<p>書き手の目的や意図をペアやグループで共通理解することで、目的や意図に応じた文章の構成や展開になっているかを判断することができ、よさを見付けやすくなります。</p>		

ペア2 教師が働き掛けることで、書こうとしたことが明確に表現されているかについての伝え合いから、文章全体の構成や展開についての伝え合いに高まった例



二つのがんばりたいことが伝わるかな。



「運動」と「読書」だね。がんばりたいことが分かりやすいよ。ことわざがあるのもいいね。

古橋さんは、書こうとしたことやことわざについても気付いているな。でも、ことわざを最初の段落に書き加えたよさや文章全体の構成のよさについても気付かせたいな。



小池さんは、推敲のときにことわざを最初の段落に書き加えていましたね。どうしてそうしようと思いましたか。

外国のことわざに「The first step is always the hardest.」というものがある。「最初の一步がいつもいちばん難しい」という意味だ。ぼくは、一度できないと、すぐにあきらめてしまうところがある。また、最初の一步をふみ出すことをめんどろに思ってしまうところもある。だから、この言葉を「今年の言葉」として、次の二つのことをがんばりたい。

一つは、運動だ。好きなサッカーには進んで取り組むが、苦手な鉄棒からは遠ざかってしまう。今年「最初の一回」ができなくても、あきらめず、練習を続けたい。そして、逆上がりができるようにしたい。

もう一つは、読書だ。今年長い物語にもちよう戦したい。国語の時間に友達がすすめてくれた本がおもしろそうだったからだ。思い切って「最初のページ」を開き、最後まで読み切りたい。

【小池さんが書いた文章】



自分がかんばろうと決意したきっかけをくれた言葉だったので、文章のはじめに書き加えました。



そうだったんだ。ことわざの「最初の〇〇」を運動や読書のときにも文章全体を通して繰り返し使っているのだから、小池さんの「今年、いろいろなことにあきらめずに挑戦したい」という思いが伝わったよ。



ことわざを書き加えてよかった。意識していなかったけれど、最初に「いろいろなことに挑戦したい」という思いを書いて、その後、具体的なことを書いた構成もよかったんだな。



伝え合いを通して、二人ともことわざを書き加えたことのよさを言語化し、文章全体の構成のよさや内容や表現の一貫性を意識して書くことのよさに気付くことができたみたいだな。

ポイント

書き手が工夫したところを自ら伝えられるように、教師が下書きから変えた理由を尋ねるなどして書き手に思いを表出させたり、工夫やよさに気付かせたりすることが大切です。そうすることで、自分の文章のよいところが明確になります。

ペア 3

教師が働き掛けることで、内容の共感や表現の工夫についての伝え合いから、文章全体の構成や展開についての伝え合いに高まった例



福田さん

みんなが共感してくれるといいなと思って書いたけれど、うまく書けているか不安だな。



村木さん

頼られる六年生になりたいというところがいいね。「じっと」や「そっと」などの言葉がいいね。

このペアは、内容や表現のよさは伝え合っているな。さらに、文章全体の構成や展開のよさを伝え合ってほしいな。働き掛けてみよう。



よい感想ですね。村木さんは、どうして、そう思いましたか。



入学した時の一年生の様子を詳しく書いているから、自分たちががんばらなければならないことがよく分かります。「小さな目から大きなきん張」や「入学した時」と「卒業する時」のように、反対の言葉を使っているのもいいと思います。



たしかに、そうですね。福田さんは、自分の文章で気に入っているところはありますか。



今年、いちばんがんばりたいことを文章の最初に一文で短くはっきりと書いたところは、工夫したところです。



なるほど。今年がんばりたいことを最初に宣言したのですね。その後にきっかけとなったことを具体的に書くことで、決意の強さが伝わってくるのですね。村木さんの言うとおり、「小さな目」と「大きなきん張」、「入学した時」と「卒業する時」など、対比して書いてあることで、「たよられる六年生」ということが更に強調されますね。福田さんは、自分の文章のよさを見付けることができましたね。

【福田さんが書いた文章】

「一年生にたよられる六年生になる。」
これが、わたしの今年がんばりたいことだ。
一年生が入学した時、わたしは教室の前で一年生をむかえた。一年生は、なかなか教室に入ろうとしなかった。ろう下から教室をじっと見つめる小さな目から大きなきん張が伝わってきた。わたしは、そっと一年生の背中をおした。教室に入っていく一年生の後ろ姿を見て、これからわたしがリードしなくては、と思った。
一年生が安心して楽しく学校で過ごせるように、自分から進んで声をかけたり、助けたりしたい。そして、わたしが卒業する時には、あんな六年生に自分もなりたいたいと思ってもらえるような六年生になりたい。

ポイント

必要な場合には教師がペアやグループの伝え合いに参加し、文章のよいところを児童から引き出したり、児童の発言を価値付けたりすることが大切です。

振り返り	自分の文章のよさを書き、学級全体で読み合う
------	-----------------------



文章について意見や感想をたくさん伝え合うことができましたね。この時間の振り返りとして、伝え合ったことを基にして、自分が書いた文章のよさを書きましょう。

【小池さんの振り返り】
 ぼくが書いた文章のよ
 いところは、ことわざを
 引いたところや、何を
 か「最初のうちは、何
 は「最初のうちは、何
 い「最初のうちは、何
 ことを分かった上で、
 二つのが、にまじめに
 を段落ごとにまとめ、
 書くことができました。

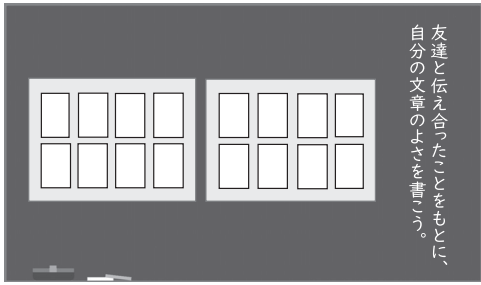


【福田さんの振り返り】
 わたしが書いた文章は、
 最初にはっきりとりたい
 自分の姿を宣言したのが
 よかった。きっかけとなっ
 一年生が入学した時の
 出来事を具体的に書くこ
 とで決意の強さも伝わるの
 だと思った。



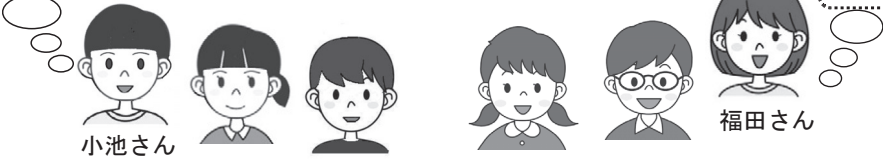
みなさん、友達が書いた文章のよさだけでなく、自分が書いた文章のよさを見付けることができましたね。お互いの振り返りを読み合っ、次の学習にも生かしましょう。

福田さんの振り返りを読むと、僕と一緒に、最初に簡単に書いて、後から具体的に書いたんだな。福田さんが書いた文章も読みたいな。



小池さんみたいに引用することで、自分の思いを伝える方法もあるんだなあ。

おじいちゃんに成長した姿を手紙で伝えたいな。



【活用のポイント】

- 学級の児童の状況に応じて、一単位時間の展開を工夫することが大切です。ペア3のように、自分たちだけで文章全体の構成や展開について伝え合うことが難しい状況が多く見られる場合は、最初に学級全体で伝え合いの観点を確認してから、ペアやグループの活動に入る方法が考えられます。一方で、ペアやグループでの伝え合いを終えた後に伝え合ったことを学級全体で交流することが効果的な場合もあります。
- 他教科等において書いた文章を読み合う場面でも、よさを見付け合う活動を展開することが考えられます。様々な場面で日常的に行うことで、自分の文章を読み返したり、そのよさを見付けたりする態度が習慣化されることが期待されます。

設問三 ア、イ、ウ

趣旨

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

エ 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
③	三 ア	1 「録画」と解答しているもの	65.3	◎
		2 「録」と解答しているが、「画」と解答していないもの	1.7	
		3 「録」と解答していないが、「画」と解答しているもの	20.3	
		99 上記以外の解答	4.6	
		0 無解答	8.0	
	三 イ	1 「反省」と解答しているもの	58.9	◎
		2 「反」と解答しているが、「省」と解答していないもの	20.6	
		3 「反」と解答していないが、「省」と解答しているもの	1.7	
		99 上記以外の解答	8.7	
		0 無解答	10.1	
	三 ウ	1 「親(しむ)」と解答しているもの	67.2	◎
		99 上記以外の解答	18.1	
		0 無解答	14.6	

2. 分析結果と課題

- 三アの解答類型2の反応率は1.7%、解答類型3の反応率は20.3%である。「ろくが」の「が」は「画」として文の中で正しく使うことはできるが、「録」を文の中で正しく使うことに課題があると考えられる。「録」については、同じ部分をもつ「録」と解答している児童が見られた。
- 三イの解答類型2の反応率は20.6%、解答類型3の反応率は1.7%である。「はんせい」の「はん」は「反」として文の中で正しく使うことはできるが、「省」を文の中で正しく使うことに課題があると考えられる。同じ読み方をする「成」、「生」、「正」、「性」と解答している児童が見られた。
- 三ウは、平成28年度【小学校】国語A①ニ2（正答率74.0%）と同一の漢字を扱った問題である。本設問の正答率は67.2%であり、漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。解答類型99の反応率は18.1%である。同じ読み方をする「下」と解答している児童や、同じ部分をもつ「新」と解答している児童が見られた。また、「楽」と解答した児童が見られたことから、「親しむ」の意味を捉えることができていない児童もいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

同じ部分や同じ読み方をする漢字を注意して使う

○ 漢字を文や文章の中で使うことに課題が見られるため、学習指導に当たっては、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うように指導することが重要である。

そのためには、同じ漢字を繰り返し練習することにとどまらず、学習において感想や振り返りを書く場面や、日常生活において日記を書く場面などで漢字を使うことを意識した取組が必要である。その際、同じ部分をもつ漢字や同じ読み方をする漢字に注意して書くことを指導することが大切である。

漢字の学習指導に当たっては、以下の資料も参考になる。

(参照)

① 「平成28年度【小学校】報告書」 p.27

<https://www.nier.go.jp/16chousakekkahoukoku/report/data/16plang.pdf>

② 「平成29年度【小学校】報告書」 pp.48-50

<https://www.nier.go.jp/17chousakekkahoukoku/report/data/17plang.pdf>

③ 「平成30年度【小学校】報告書」 p.49

<https://www.nier.go.jp/18chousakekkahoukoku/report/data/18plang.pdf>

① 平成28年度【小学校】報告書



② 平成29年度【小学校】報告書



③ 平成30年度【小学校】報告書



設問四

趣旨

漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第3学年及び第4学年〕 知識及び技能

(3) 我が国の言語文化に関する事項

エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。

(イ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
③	四	1	1 と解答しているもの	2.5	
		2	2 と解答しているもの	7.6	
		3	3 と解答しているもの	5.7	
		4	4 と解答しているもの	78.0	◎
		99	上記以外の解答	0.3	
		0	無解答	5.9	

2. 分析結果と課題

- 解答類型2と、解答類型3の反応率の合計は13.3%である。この中には、相手の読みやすさを考えて、「文字の大きさ」や「文字と文字との間」に注意して書くことの大切さは理解しているものの、島谷さんが、行の中心に文字の中心をそろえて書き直していることを捉えることができなかつた児童がいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く

- 漢字や仮名の大きさとは、漢字と漢字、漢字と仮名、仮名と仮名との相互のつり合いから生じる相対的な大きさのことである。画数の多い文字ほど大きく書き、画数の少ない文字ほど小さく書くと、並べたときに読みやすい文字列になる。配列に注意してとは、行の中心や行と行との間、文字と文字との間がそろっているなど文字列及び複数の文字列に注意してということである。読みやすい文や文章を書くには、一文字一文字を整えることに加え、文字の集まりという面から整えることが重要である。

本設問では、島谷さんが、手紙を書き直す際に、相手の読みやすさを考えて、行の中心に文字の中心をそろえて書いていることを捉えることが求められる。

実際の授業においても、相手にとって読みやすいかということ意識して書くことを指導することが重要である。その上で、本設問で手紙を書く場面を設定したように、漢字や仮名の大きさや配列に注意して書く場面を設定すると効果的である。毛筆で学習したことを日常生活で生かすことを意識できるように指導することも大切である。

書写の学習指導に当たっては、以下の資料も参考になる。

(参照)

「平成28年度【小学校】報告書」p.47

<https://www.nier.go.jp/16chousakekkahoukoku/report/data/16plang.pdf>



